Ⅴ　桑原西稲葉遺跡３～５次(北吉井団地)調査

1　調査の経過と方法

(1)　調査の経緯

愛媛大学宿舎が存在する北吉井団地（図２）は、周知の「桑原遺物包含地（松山市埋蔵文化財包蔵地地図157)」に隣接するものの、包蔵地外にあたる。しかし、周辺での松山市による調査から、遺跡存在の可能性が予想されていたため、1994年度に東長戸他環境整備（駐車場整備・配管設置）工事に際して、埋蔵文化財調査室では立会調査を実施することとした（調査番号：99401)。その結果、包含層は既に削平されていたものの、遺構の残存が認められ、周辺が古墳時代後期から古代の集落遺跡の一端であることが明らかとなった。また、1995年度にも１件の立会調査（調査番号：99508）を実施している。

続いて1997年度には、北吉井宿舎屋外排水管改修工事に伴い、掘削工事が行われることとなった。先の調査成果を承けて、埋蔵文化財に対する影響が及ぶと判断され、しかも100㎡を越える範囲が対象となるため、文化財保護法第57条第１項に基づく発掘届を提出して、事前に全面調査を実施した（調査番号：99710)。細い管路とは言え、北吉井団地のほぼ全域に調査が及ぶため、３次調査で確認していた遺跡について、その広がりを確認することを目的として調査に臨んだ。

４次調査の際に、調査区に隣接した埋設管からガス漏れがあり、詳細を検査したところ、老朽化したガス管の早急なる交換が促されることとなった。団地内各家庭にガス供給が行われている現状があり、既設管をそのままに新たなガス管埋設に伴う掘削が行われることとなり、埋蔵文化財への対応も必要となった。本来なら、先の排水管改修工事同様の手続きと調査精度が求められるところながら、ガス遺漏の修繕という緊急性と、調査・工事中の安全確保といった点から、埋蔵文化財調査室・施設部・施工業者で協議の上、また松山市教育委員会からの指導も受けながら、今回に限り緊急避難的に立会形式で調査を行うこととした（調査番号：99711)。

なお、報告書刊行に際して松山市教育委員会との協議により、北吉井団地北西約100ｍの地点の遺跡名「桑原西稲葉遺跡」を、愛媛大学北吉井団地にも適用することとし、99508調査を除いて、調査順に３次・４次・５次調査と呼称することとした。

(2)　調査区割の設定と呼称（図121）

北吉井団地については、樽味団地のような平面直角座標系Ⅳ系に基づく基準点は設置しておらず、いずれも既存建物の外壁や地境を基準とした平板測量によって、トレンチの位置を特定している。そのため方位は、図121の真北を除いて、すべて磁北を表している。また標高についても、松山市作成都市計画図（縮尺１/500）に示された南側道路面標高を基準としている。なお、トレンチが長距離に及んだ４次調査については、トレンチ配置に関する仮座標こそ設定しているが、既存建物の外壁や地境との関係は平板測量に基づいている。

３次調査では、宿舎１号棟と２号棟の間の東西に長い調査区をⅠ区、２号棟南をⅡ区とした。

４次調査では、まず団地北西隅に基準点０を仮に設置し、これを基準に各地区の位置関係を把握した。先の年報では、管路の枝毎に記述を進めたが、改めて以下のような区割呼称に変更する。Ⅰ区は２号棟南管路部分とした箇所で、主管の南端より東側すべてを指す。Ⅱ区は主管路南（２号棟西）部分にあたり、Ⅲ区は主管路中央（駐車場西）部分である。Ⅳ区は２号棟北管路部分、Ⅴ区は１号棟南管路部分、そしてⅥ区が主管路北（１号棟西）部分、Ⅶ区が１号棟北主管路部分である。

５次調査では、ガス管遺漏の改修という緊急性もあって、４次調査Ⅱ・Ⅲ区の西側に調査区は隣接し、平板測量により４次調査の基準点を特定している。

(3)　調査の経過

桑原西稲葉遺跡３次調査は、1994年５月10日から13日、さらに16・18日に、立会形式で行った。

桑原西稲葉遺跡４次調査は、1997年10月８日から31日に及ぶ。団地内では、一般家庭生活が行われており、その障害とならないよう、南側から順次調査を行い、調査終了部分毎に管路埋設工事が行われた。なお、調査終了後も、屋外排水管改修工事に伴う予測していなかった箇所での包含層検出等から、11月６・12・13・18日、さらには12月１日に追加調査を行った。

桑原西稲葉遺跡５次調査は、ガス漏れという緊急性から、1997年11月12～14日の短期間で、かつ立会形式で調査を行った。なお、18日にも追加補足調査を行っている。

(4) 遺構・遺物の登録番号と種別の表示

遺構はいずれも、Ⅳ層上面での検出である。遺構番号は、各調査次毎に１から付している。３次調査ではⅠ区で１～11、Ⅱ区で21～28、４次調査では欠番を挟みながら１～368、５次調査で１～31に及ぶ。遺構の種別は、SC：竪穴式住居、SD：溝、SK：土壙、SP：柱穴・小穴、SA：柵列、SX：その他の略号を遺構番号に冠して表した。

出土遺物については、各調査次毎にRを冠した番号を遺物取上番号として与え、接合他の検討を行った。そして、報告書に記載すべき記録可能な個体を選別する時点で、１個体（実測図単位）に対して、改めて４桁のRを冠した遺物実測番号を付し、別色で追加注記している。出土遺物観察表の実測番号がこれに当たる。３次調査ではR1001～1094、４次調査ではR1001～1077、５次調査ではR1001～1017を数える。

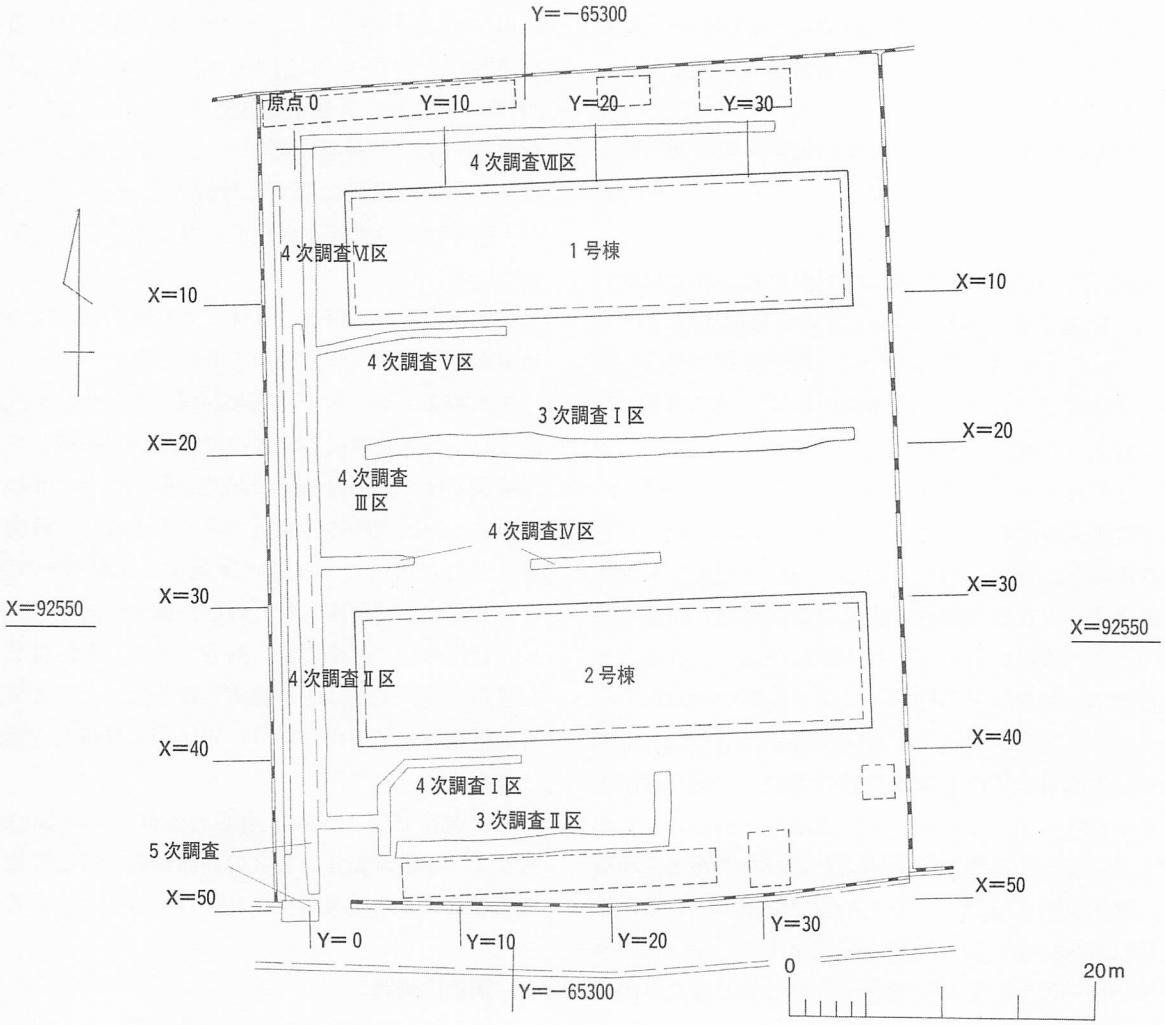


図121　調査区割図（縮尺１/500）

2　調査の概要（図121）

(1)　３次調査の概要

調査地点　松山市桑原２丁目９番８号
愛媛大学北吉井団地
調査番号　99401
調査面積　54.5㎡
調査期間　1994年５月10日～13日・16日・18日
調査担当　田崎博之
調査補助　宮崎直栄

３次調査は、北吉井団地における初めての調査であり、遺跡の実態把握を目的として立会形式で実施した。調査区は２ヶ所。基本層序は樽味団地に共通し、上位からⅠ～Ⅴ層である（Ⅰ－２参照）。ただし、Ⅲ層は部分的にしか残存せず、遺構はⅣ層上面で検出した。確認した遺構は、以下の通りである。

溝　５条（SD-21～24・28）
柱穴・小穴　13基
Ⅰ区：10基（SP-１・３～11）
Ⅱ区：３基（SP-25～27）

出土遺物の大半は溝出土で、５～７世紀の須恵器・土師器である。この間、時期を違えながら、溝の掘削・使用・埋没が繰り返されていたことが確認できる。

(2)　４次調査の概要

調査地点　松山市桑原２丁目９番８号
愛媛大学北吉井団地
調査番号　99710
調査面積　100.4㎡
調査期間　1997年10月８日～31日、
11月６・12・13・18日、12月１日
調査担当　吉田　広・三吉秀充

樽味団地共通の基本層序を確認できたが、Ⅲ層の広がりは団地南部の一部のみで、遺構はⅣ層上面での検出である。検出した遺構は、以下の通りである。

竪穴式住居　19棟
（SC-51・53～55・57・58・61・131・204・270・283～285・362～367）
掘立柱建物　２棟（SB-361・368）
溝　５条
（SD-１・41・181・273・286）
土壙　８基
（SK-23・52・59・103・189・205・216・272）
柵列　３基（SA-351・352・353）
柱穴・小穴　315基

これらのほとんどは６～７世紀代の遺構で、溝や竪穴式住居の埋土中からは、須恵器・土師器が多く出土している。特に団地南西部のⅡ区においては、竪穴式住居他（SC-51、SK-52・SC-53～55・57・58、SX-62・SC-61）が重複する。なおこの他に、10世紀代の遺物もわずかながら存在し、埋土が黒褐色シルトを主体とする柱穴（SP-310）と柵列３列（SA-351・352・353）が、この時期の遺構である。

(3)　５次調査の概要

調査地点　松山市桑原２丁目９番８号
愛媛大学北吉井団地
調査番号　99711
調査面積　32㎡
調査期間　1997年11月12～14・18日
調査担当　吉田　広・三吉秀充

５次調査は、４次調査検出遺構の広がりを再確認しながら調査にあたったが、狭い管路幅のみの調査であったことと、ガス漏れという事態に対する限られた時間内での調査のため、４・５次調査の対応関係がなお判然としない部分がある。検出した遺構は、以下の通りである。

竪穴式住居　７棟（SC-８・14・16～19・21）
柱穴・小穴　24基
（SP-１～７・９～13・15・20・22～31）

４次調査Ⅱ区隣接部に遺構が集中し、６～７世紀の土師器・須恵器が出土し、鞴の羽口も確認されている。なお、これらに混じって10世紀代の遺物もある。

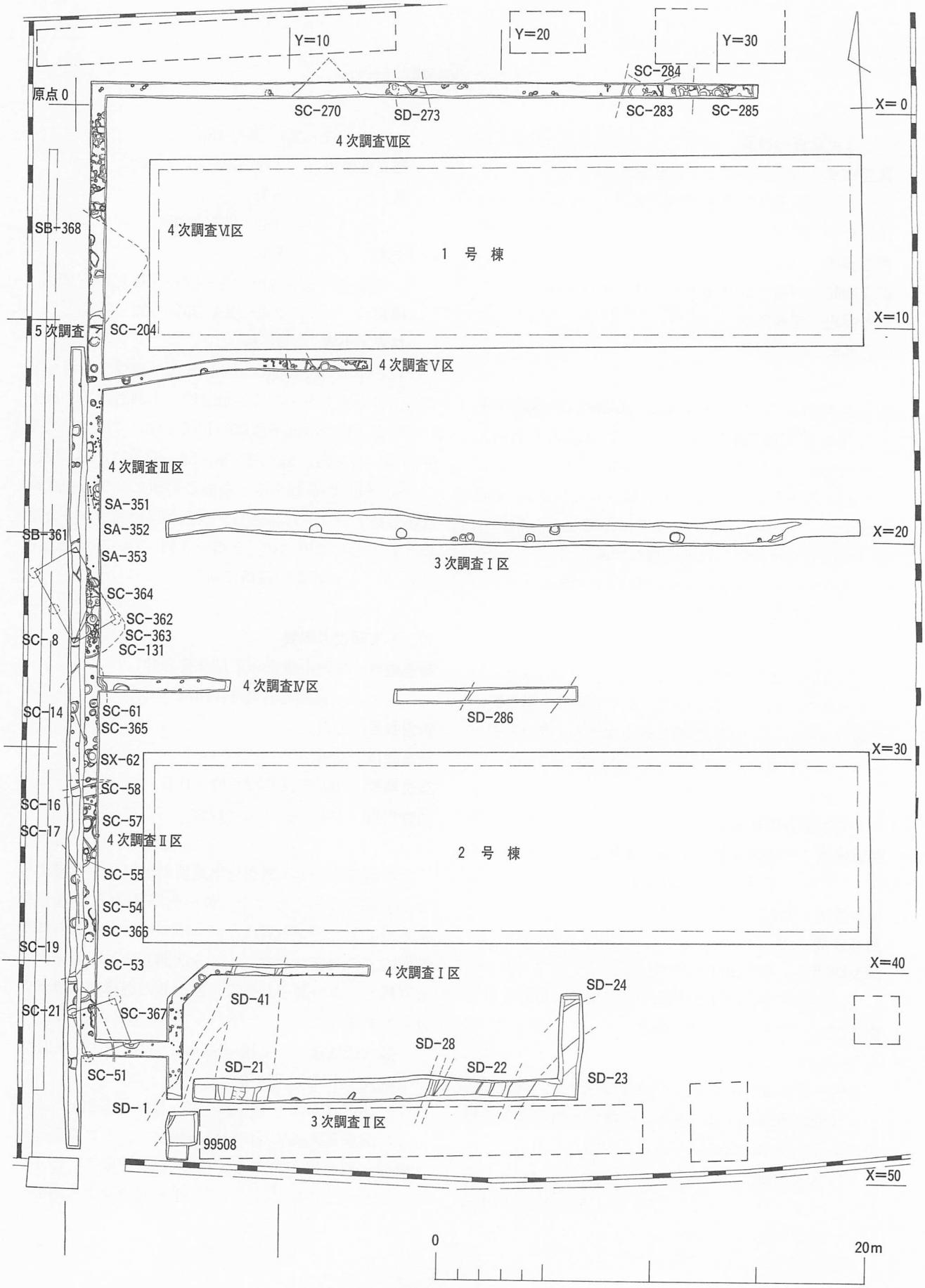


図122　遺構配置図（縮尺 1 /250）

3　調査の記録

i　3次調査

排水管が埋設される宿舎建物に挟まれた部分をⅠ区、敷地南側の自転車置場に沿った部分をⅡ区とした。両区とも、Ⅲ層は部分的にしか残存せず、Ⅳ層上面で遺構を確認した。

(1)　Ⅰ区（図123、図版35-1）

Ⅰ区は、東西約30m・幅1.2m前後の調査区である。Ⅰ区では部分的に残るⅢ層の下、Ⅳ層上面で、柱穴を含む小穴11基を検出し、遺物も出土した（図124）。

SP-1は溝または土壙状の遺構で、黒色～黒褐色粘質シルトの埋土をもち、小指先大の炭化物、土器の細片が出土した。図化できた遺物は2点（1・3）。1は須恵器蓋の天井部。3は須恵器の高坏脚部。脚柱部には2条の沈線を挟んで、上下に長方形透かしが施される。6世紀後半～7世紀初頭。

SP-4～6・10では、杭もしくは柱の痕跡を確認している。SP-3・7～9・11・12は小穴で、SP-11・12の埋土は黒色～黒褐色である（図版36-1～4）。これら小穴出土遺物で図化できたのは3点。2はSP-9出土の須恵器坏。受け部に蓋の口縁端部の一部が剥離して付着する。4はSP-4出土の須恵器の甕胴部片。外面には縄蓆文、内面には青海波文が施される。6世紀後半～7世紀初頭。5はSP-6出土の5世紀代の土師器の高坏脚柱部で、内面に粘土の絞り痕が顕著に見られる。図化できなかったが、SP-3・8・10・11からは土師器細片、SP-5から弥生土器・土師器の細片が出土している。遺物の出土状況から柱穴のほとんどは、古墳時代後期と考えられる。なお、Ⅲ層出土遺物として、6の土師器の甕口縁部がある。5世紀末～6世紀初頭。

(2)　Ⅱ区（図125・126、図版35-2・3）

Ⅱ区は、幅約1.2m、東西約18mで北に5m延びるL字状の調査区である。Ⅱ区で検出した遺構は、溝5条と、柱穴・小穴3基である。

①　**SD-21**（図125、図版36-5）

SD-21は、検出面で幅約2.5m・深さ約1mの逆台形状のしっかりした溝である。埋土上部はシルトで、地山層であるにぶい黄褐色粘質シルトの塊が混じる。下底付近には流水によると考えられる縞状の砂礫層が堆積している。埋土の中でも、1～7・9・12・14層は、砂礫を多く含む砂質シルトで、Ⅳ層の黄褐色粘質シルトのブロックが混じる。また、土層の堆積状態から2度ほどの掘り直しが確認できる。

出土遺物は、基本的に上層・中層・下層に分けて取り上げたが、上層が7層以上、中層が8～10層、下層が11層以下にほぼ相当する。以下、図示できた出土遺物について解説する（図127・128、図版42-1～4）。

上層出土遺物で図化できたものはない。1～18は中層出土。1～4は須恵器蓋、5～9は須恵器坏。6世紀後半～7世紀初頭。10は須恵器の高坏坏部～脚部片で、短脚と推測される。7世紀代。11は須恵器の高坏脚部で脚裾に向かって大きく「ハ」の字状に開く。12は須恵器の鉢口縁部。口縁部と胴部に沈線文が1条施される。7世紀後半。13は短頸壺の胴部片で、胴上位が強く張る。外面にはカキメ調整が施される。14は須恵器鉢の底部片。内外面とも指ナデを主体に成形し、接合痕が顕著に残る。内面は胴部がナデ、底部は指押さえ後ナデ。15は土師器の坏底部。内面にナデ、底部は指押さえが見られる。16は土師器高坏の脚裾部で端部は面をなす。17は土師器の甕口縁部で、内湾しながら立ち上がり、端部は丸く収める。焼成はやや軟質。5世紀末～6世紀初頭。18は土師器の甕肩部で、外面には横方向のハケメが施された後、ヘラ状工具による「ノ」の字状の列点文がめぐる。5世紀前半。

19～23はSD-21西半部一部攪乱混じり出土として取り上げたもので、一部攪乱を含む中層以上出土に相当する。19・20は須恵器坏蓋。21は須恵器の坏で6世紀中頃。22は須恵器の坏底部。23は土師器の坏口縁部。

24～37はSD-21下層出土。24～35は須恵器。24は坏蓋。25・26は坏身。6世紀後半～7世紀初頭。27～29は坏身底部。30・31は高坏の口縁部。30は大型品で、口縁部は緩やかに外反し、先端付近で強く外反する。坏部下半に沈線が1条施される。5世紀後半。31は直線的に外傾し、口縁先端は先細りする。口縁部と底部の境に沈線文が1条施される。5世紀後半。32・33は

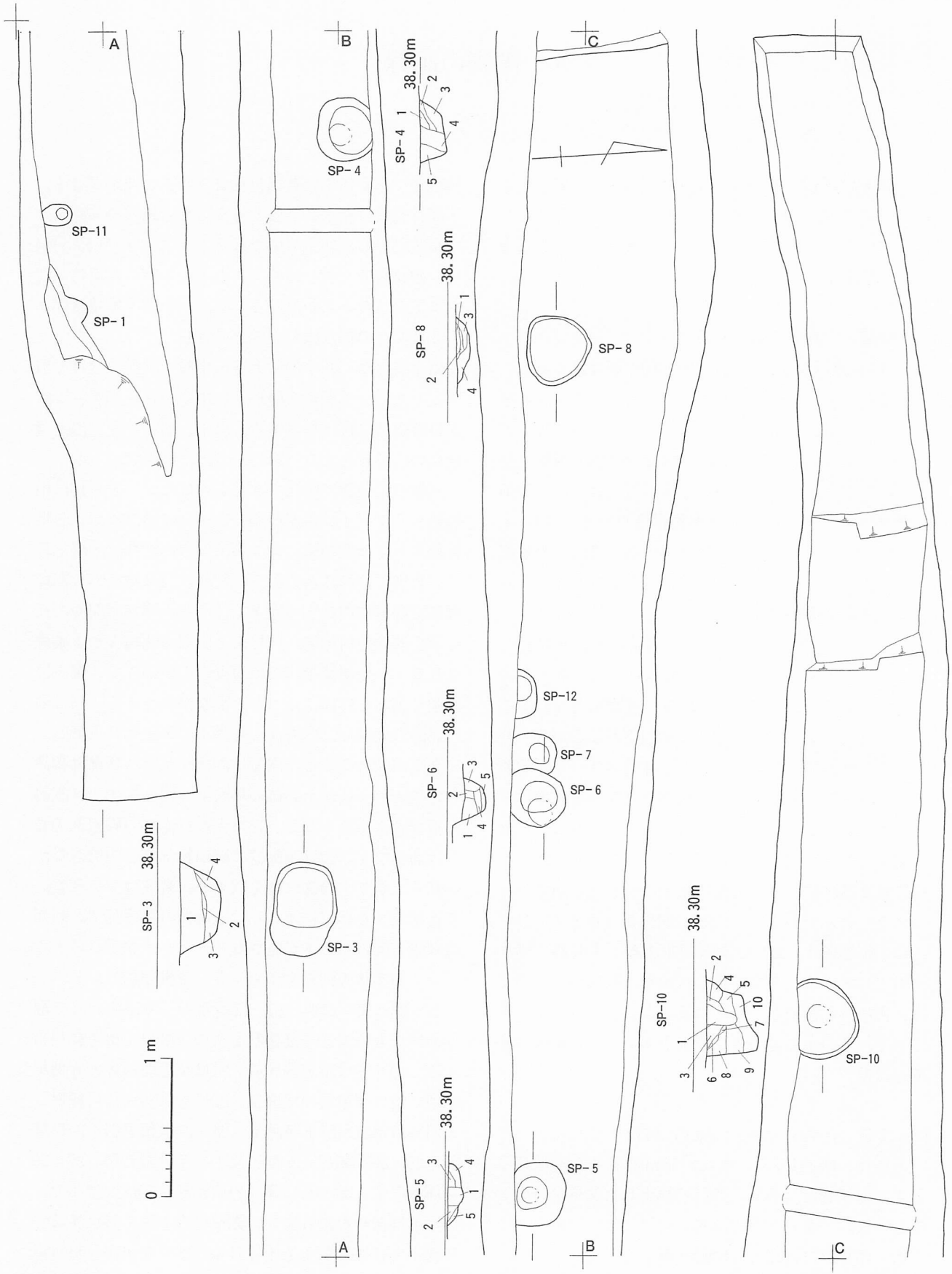


図123　3次調査Ⅰ区実測図（縮尺1/40）

図123　土層注記

SP-３
1　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。褐色（10YR4/4）粘質シルトを多く含む。
2　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。１層と同じだが、炭化物を少量含む。
3　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。褐色（7.5YR4/3）粘質シルトが一部薄いレンズ状ブロックに混じる。１cmの炭化物片が少量出土。
4　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。褐色（10YR4/4）粘質シルトが多く混じる。土器細片出土。

SP-４
1　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。暗褐色（7.5YR3/4）粘質シルトが少量混じる。
2　１層に同じ。
3　黒褐色（7.5YR3/1）粘質シルト。にぶい黄褐色(10YR4/3)シルトの幅２cm程のレンズ状ブロックが少量混じる。炭化物の細片が少量出土。
4　黄褐色（10YR4/3）シルト。暗褐色（10YR3/3）シルトの小塊が少量混じる。柱痕。
5　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。黒褐色（10YR3/1）の粘質シルトが多く混ざり込む。

SP-５
1　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。暗褐色（7.5YR3/4）粘質シルトを少量含む。柱痕。
2　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。暗褐色（7.5YR3/3）粘質シルトの小塊を少量含む。
3　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。暗褐色（7.5YR3/3）粘質シルトの小指先大の塊が多い。
4　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。暗褐色（7.5YR3/4）粘質シルトを少量含む。
5　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。暗褐色（7.5YR3/4）粘質シルトの小塊が多い。

SP-６　全体に１cmの炭化物を極少量含む。
1　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。黒褐色（10YR3/2）シルトの小塊を少量含む。
2　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。黒褐色（10YR3/2）シルトの小指先大の塊を少量含む。
3　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。暗褐色（10YR3/3）シルトを少量含む。土器片出土。柱痕。
4　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質シルトに黒色(7.5YR1.7/1)粘質シルトの小塊を少量含む。
5　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルトが流れ込む。

SP-７　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。黒褐色（10YR3/2）粘質シルトの１cm幅程の薄いレンズ状ブロックを多く含む。土器細片出土。

SP-８　土器の細片・炭化物細片がまばらに出土。
1　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。にぶい黄褐色(10YR5/3)シルトの薄いレンズ状ブロックを多く含む。
2　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。
3　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。にぶい黄褐色(10YR4/3)シルトのレンズ状ブロックが少量混じる。
4　黒色（7.5YR2/1）粘質シルト。にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトの小塊が少量混じる。

SP-10　まんべんなく１cmの炭化物片を少量含む。
1　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルトに、にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトの小指先大の丸い塊が混じる。土器細片出土。柱痕。
2　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。
3　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。土器片出土。
4　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルトで、にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質シルトの小指先大の丸い塊が少量混じる。
5　褐色（10YR4/4）粘質シルト。
6　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。黄褐色（7.5YR4/3）粘質シルトの塊が混じる。
7　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。黄褐色（7.5YR4/3）粘質シルトの塊が混じる。
8　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質シルトの２cmの塊を少量含む。
9　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質シルトの１cmのレンズ状ブロックを少量含む。
10　黒色（7.5YR1.7/1）粘質シルト。

高坏脚部。32は長脚２段で２方向に長方形透かしが施される。６世紀後半～７世紀初頭。33は筒状の脚部で、透かしはない。34は小型壺口縁部で、ラッパ状に大きく外反する。35は横瓶の胴部。外面は、縄席文タタキが施される。36・37は土師器甕の口縁部。５世紀末～６世紀初頭。

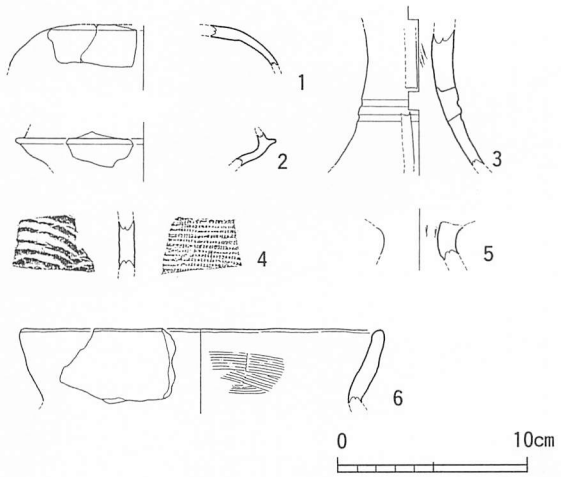


図124　３次調査Ⅰ区出土遺物実測図（縮尺１／４）

38～45はSD-21溝底砂質土層出土として取り上げたもので、下層出土に相当する。38～44は須恵器。38は高坏の蓋。39は坏蓋で６世紀後半。40～43は坏身。40は口縁部が長く、直線的に内傾する。41～43は口縁部が短く、６世紀後半～７世紀初頭。44は高坏の脚部。長脚２段、２方向長方形透かしと考えられる。６世紀中頃～後半。45は土師器坏の完形品。全体的に器壁が厚い。底部は平底で、口縁端部は丸く収める。

46～50は11層出土。46は須恵器の蓋で、６世紀後半～７世紀初頭。47・48は須恵器の坏身底部。49は土師器鉢の口縁部。口縁部は水平近くまで強く屈曲し、胴は張らずにそのまま底部に至ると推測される。口縁端部は横ナデにより、面をなす。胴部外面は粗い縦方向のハケメ、内面にはケズリ後横ナデが施される。古墳時代前期。50は砂岩製の砥石。平面は台形状を呈し、４面とも砥面として利用している。

以上の遺物の検討から、下層は、７世紀初頭以降の遺物を含んでいない。中層は、10の高坏、12の鉢が最も新しい時期を示し、７世紀後半前後。上層からは時期決定可能な遺物は見られない。先記したように、SD

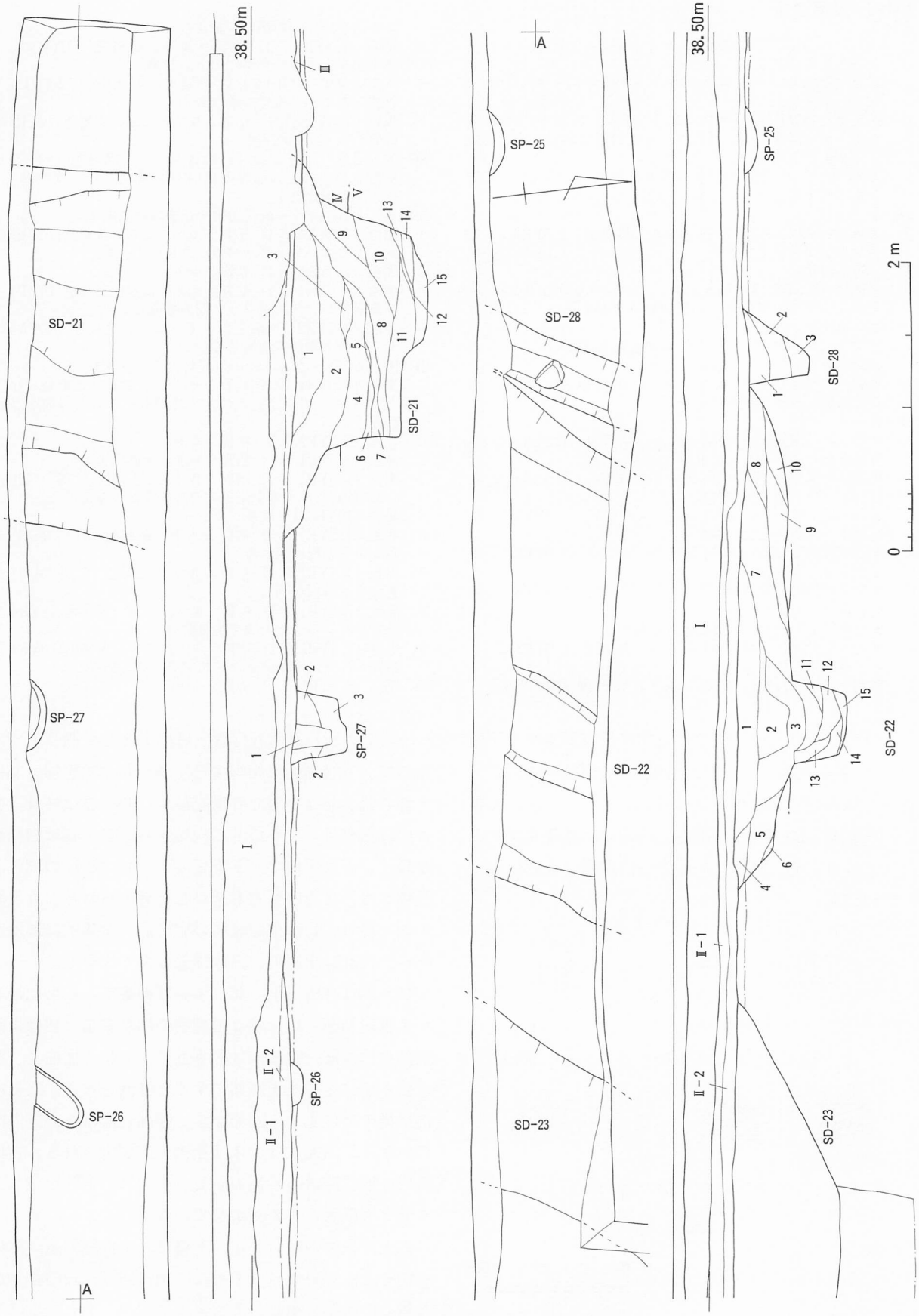


図125　3次調査Ⅱ区実測図(1)（縮尺1/40）

図125　土層注記

SD-21

1　黒褐色（10YR2/2）シルト。黄褐色（10YR5/6）シルトの小指大の丸い、２～３㎜程の礫を極少量含む。
2　黒色（7.5YR1.7/1）シルト。１層と比べてやや砂っぽい。にぶい黄褐色（10YR5/4）の小塊をまばらに含む。２～３㎜の礫が全体に極少量混じる。土器細片出土。
3　黒色（7.5YR2/1）シルト。黄褐色（10YR5/6）の小塊を極少量含む。炭化物細片が極少量出土。
4　黒色（7.5YR1.7/1）シルト。黒褐色（５YR3/2）の２㎝の丸い塊を極少量含む。土器片出土。
5　暗褐色（7.5YR3/3）粘質シルト。全体に黄色味が強い。
6　暗褐色（7.5YR3/3）粘質シルト。黒色（7.5YR1.7/1）が少し混ざり込む。
7　黒色（7.5YR1.7/1）シルト。暗褐色（7.5YR3/3）の薄いレンズ状ブロックを含む。
8　黒色（7.5YR2/1）シルト。褐色（10YR4/4）シルト質土の小塊を少量含む。粘質やや強い。炭化物細片がまばらに出土。多くの土器片出土。
9　黒色（7.5YR2/1）シルト。褐色（10YR4/4）シルトの小指先大の丸い塊を極少量含む。炭化物細片がまばらに出土。土器片出土。
10　黒色（7.5YR2/1）砂質シルト。褐色（10YR4/6）の５㎜の粒状ブロックをまばらに含む。土器片・炭化物片がまばらに混じる。
11　黒褐色（10YR2/2）砂礫。下部ほど砂質が強く、黒色（7.5YR1.7/1）の薄いレンズ状ブロックを極少量含む。砥石、土器・炭化物片が極少量出土。
12　暗褐色（10YR3/3）細砂質土。５㎝幅の薄いレンズ状ブロックを極少量含む。下部から１㎝の角張った炭化物の塊が少量出土。
13　にぶい黄褐色（10YR4/3）細砂質土。
14　黒褐色（10YR3/2）細砂質土。
15　暗褐色（10YR3/3）砂礫。にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトの１～２㎝幅の薄いレンズ状ブロックが多く混じる。

SP-27

1　黒色（7.5YR1.7/1）シルト。暗褐色（10YR3/3）シルトの１～５㎝の塊が多く混じる。柱痕。
2　黒色（7.5YR1.7/1）シルト。黒褐色（7.5YR3/2）シルトが多く混ざり込み、明黄褐色の小塊がまばらに混じる。
3　黒色（7.5YR2/1）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルトの小塊が散漫に、下部には10㎝の塊がいくつか混じる。

SD-28

1　黒色（7.5YR2/1）シルト。上部にはオリーブ褐色（2.5Y4/3）の小塊がまばらに混じる。
2　黒色（7.5YR2/1）シルト。土器片出土。
3　黒色（7.5YR2/1）シルト。黄褐色（10YR5/6）の小塊や明黄褐色（10YR6/6）の３㎝の塊が少量混じる。

SD-22

1　黒褐色（7.5YR2/2）砂質シルト。黄褐色（10YR5/6）の小塊がまばらに混じる。
2　黒色（7.5YR2/1）砂質シルト。にぶい黄褐色（10YR4/3）の３㎝の楕円形の塊が極少量混じる。
3　黒褐色（10YR2/2）砂質シルト。明黄褐色（10YR6/6）の小塊が極少量混じる。
4　黒褐色（10YR3/2）シルト。
5　黒褐色（10YR3/2）砂質シルト。黄褐色（10YR5/6）シルトの薄いレンズ状ブロックが多く混じる。
6　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト。
7　黒褐色（10YR2/2）砂質シルト。明黄褐色（10YR6/6）の２㎝の塊が混じる。
8　黒色（7.5YR2/1）砂質シルト。黄褐色（10YR5/6）シルトの５㎝の塊が混じる。
9　黒褐色（10YR2/2）砂質シルト。明黄褐色（10YR6/6）の２㎝の楕円形の塊を極少量混じる。
10　黒褐色（7.5YR2/2）砂質シルト。黄褐色（10YR5/6）シルトの10㎝の塊が混じる。
11　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。
12　黒褐色（7.5YR2/2）砂質シルト。明黄褐色（10YR6/6）の小塊がまばらに混じる。
13　黒褐色（10YR2/2）シルト。
14　黒褐色（10YR2/2）砂質シルト。黄褐色（10YR5/6）の２㎝の丸い塊が極少量混じる。
15　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト。

-21は土層の堆積状態から２度ほどの掘り直しが確認できている。土層と出土遺物との対応関係を見てみると、下層出土遺物の下限の時期から、７世紀初頭前後までに当初の溝が埋没したと考えられる。最初の溝の掘り直しおよび埋没時期は、中層出土遺物に対応し、７世紀後半と考えられる。２回目の掘り直しと埋没はそれ以降となる。

②　**SD-22**（図125、図版36-6）

SD-22は、幅約３ｍ・深さ約30㎝の浅い上段と、東寄りに偏した位置の幅約50㎝・深さ約40㎝の下段からなる。埋土は暗褐色から黒褐色の砂質シルトを主体とし、下段の掘りこみや埋土の堆積状況から、少なくとも２回の掘り直しが行われている。

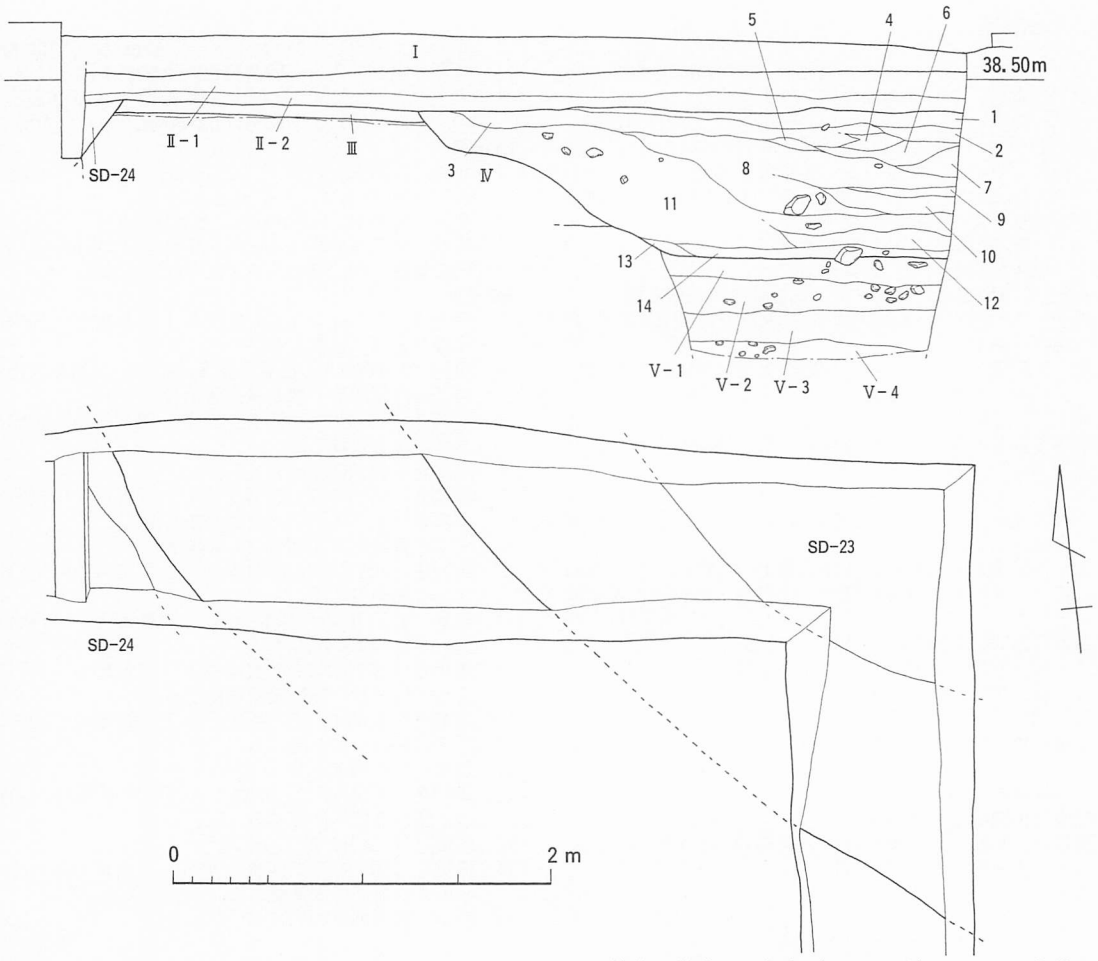
出土遺物は、基本的に上層・中層・下層に分けて取り上げたが、上層が１・２層、中層が３層、下層が４層以下にほぼ相当する。以下、図示できた出土遺物について解説する（図129、図版42-5）。

１～４は上層出土。１・２は土師器高坏の口縁部。１は内面に横方向のハケメが施される。３は土師器高坏の脚部。４は土師器甕の肩部片。５・６は中層出土。５は土師器高坏の坏部で、口縁端部がわずかに屈曲する。６は土師器壺の肩部片で、器壁が厚く大型品で胴が強く張ると考えられる。７～14は下層出土。７～11は土師器高坏。７は口縁部、８は坏底部。９・10は段をもつタイプの坏部。９は大きく開き浅い。11は高坏の脚裾部で、裾部の屈曲は明瞭で水平方向に開く。12は小型丸底壺の胴部片。13は土師器甕の頸部で、屈曲が強く、内外面に明瞭な稜が見られる。14は土師器鉢の底部。丸底で外面にはタタキが施される。15はSD-22南壁清掃中出土の小型丸底壺の胴部片である。16は上層出土の鉄器。釘の可能性が考えられる[注1]。

下層出土遺物は、５世紀中頃に位置づけられる。また、上層・中層出土遺物は５世紀後半を下らないことから、SD-22は５世紀中頃前後に掘削され、数度の埋没・掘り直しを経て、５世紀後半に完全に埋没したと考えられる。

③　**SD-23**（図126、図版36-7）

SD-23はⅡ区の屈曲部で検出した溝。南壁で約2.5



SD-23

1　黒褐色（10YR2/2）砂質シルト。かなり砂礫を含む。
2　黒色（7.5YR2/1）砂質シルト。暗褐色（10YR3/3）シルトのレンズ状ブロックや、褐色（10YR4/4）シルトの小塊が少量混じる。
3　黒色（7.5YR2/1）砂質シルト。
4　黒褐色（10YR2/2）砂礫混じりシルト。にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトの小塊が少量混じる。
5　黒褐色（10YR2/2）砂質土。
6　黒色（7.5YR2/1）シルト。黒褐色（10YR2/2）粘質シルトや褐色（10YR4/4）シルトの2㎝の塊が極少量混じる。
7　黒色（7.5YR1.7/1）シルト。右斜め上方から、厚さ1㎝、長さ5㎝程のにぶい黄褐色（10YR4/2）ブロックが混じる。
8　黒色（7.5YR2/1）砂質土。薄いレンズ状の微細・細砂が縞状に堆積し、褐色（7.5YR4/4）シルトの小塊が少量混じる。土器出土。
9　黒色（7.5YR2/1）砂質シルト。やや砂質が強く、褐色（7.5YR4/6）の小塊が極少量混じる。
10　黒褐色（10YR2/2）砂。微細・細砂が縞状の互層となって堆積。褐色（7.5YR4/4）の極小さい塊がまばらに混じる。
11　黒色（10YR1.7/1）砂質シルト。にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトの2～10㎝の塊が極少量混じる。土器出土。
12　灰黄褐色（10YR4/2）砂質シルト。黄褐色粘質シルトの親指大の塊が混じる。
13　黒褐色（7.5YR3/2）砂質シルト。角張った炭化物片を少量含む。
14　黒褐色（7.5YR3/1）砂質土。微細・細砂が縞状に互層堆積。

図126　3次調査Ⅱ区実測図(2)（縮尺1/40）

m、東壁で約3mにわたって検出でき、深さ約90㎝の緩やかな逆台形状を呈する。全体に砂質が強い埋土をもち、いくつかの土層では、流水を物語る砂層が縞状に互層状態で堆積している。

出土遺物は、やはり上層・中層・下層に分けて取り上げているが、上層が10層以上、中層が11・12層、下層13・14層にほぼ相当する。以下、図示できた出土遺物について解説する（図130、図版42-6、43-1）。

1～4は須恵器。1は12層出土の蓋。2は中～下層出土の蓋。3は溝底砂層出土の蓋。4は3層出土の蓋である。1・2は6世紀後半、3は6世紀中頃～後半。5～12は土師器。5・6は南壁清掃中暗茶褐色粘質土出土の高坏の脚部。5は筒状をなし中実。6は脚柱部のみ中実で、脚裾が「ハ」の字状に大きく開く。7は溝底砂層上部の土層から出土した高坏脚部。8は上層出土の鉢の口縁部で、直口するボール状の形態。9・10はSD-23下半部出土の甕口縁部である。口縁部が強く屈曲し、胴部もやや張ると考えられる。9は胴部外

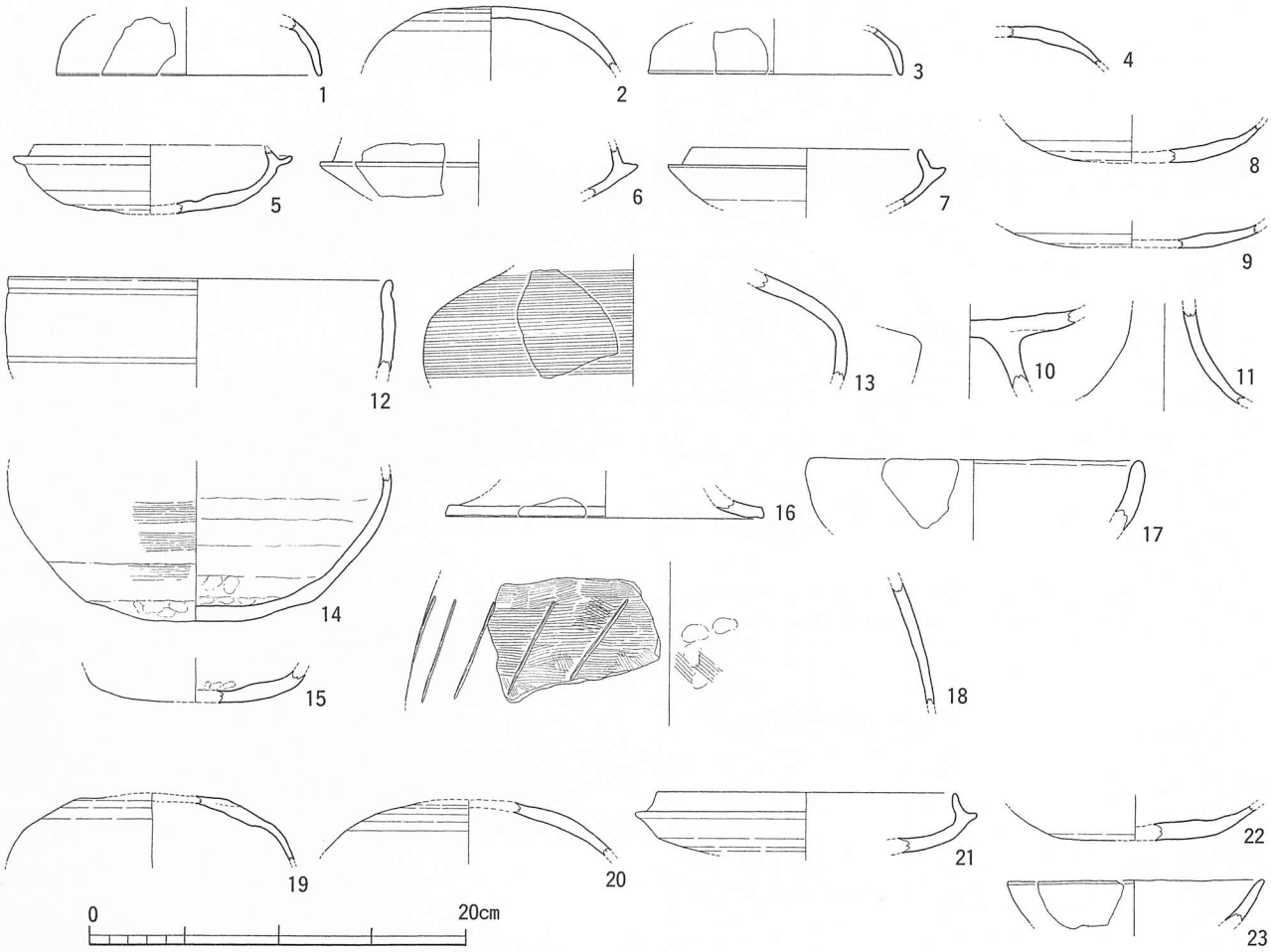


図127　３次調査SD-21出土遺物実測図(1)（縮尺１／４）

面に横方向の粗いハケメが施される。11・12は中～下層出土。11は甕の口縁部で、緩やかに外反する。12は把手付鍋で、把手が剥離した痕跡が残る。また、外面の一部は赤変した部分がある。13は上層出土の砂岩製の台石である。本来は平面円形と考えられる。中央部付近に黒変部が存在し、敲打痕が集中する。

５～10のように４・５世紀に遡る遺物があるものの、溝底砂層出土の３や中～下層出土の12などから６世紀中葉前後に溝が機能していたと考えられる。また、７世紀代に下る資料は認めらないことから、６世紀後半前後に溝としての機能を失ったと考えられる。

④　**SD-24**（図126）

SD-24は、Ⅱ区北端でわずかに見つかった溝状遺構。SD-22と同一の溝の可能性が高い。出土遺物は弥生土器・土師器の細片である。

⑤　**SD-28**（図125、図版36-6）

SD-28は、SD-22の西脇に接するような位置で検出した溝。幅約40cm・深さ50cm弱のＶ字形に近い逆台形状の断面を呈する。埋土はシルト質土で、流水を示す砂層等は検出されなかった。出土遺物はない。

⑥　**柱穴・小穴**

Ⅱ区では以上の溝の他に、SP-25～27を検出している。SP-27は立柱痕跡は平面で検出できず、土層断面で確認した。SP-25・26は黒色～黒褐色シルトの埋土をもつ。いずれも出土遺物はない。

⑦　**Ⅲ層出土遺物**（図131）

Ⅲ層出土遺物から図化できたのは古墳時代の７点。２がⅡ区西半部、他は東半部出土である。１は須恵器の蓋口縁部で、焼成はやや軟質。６世紀後半。２は須恵器高坏の脚部で、脚端部は回転ナデによりくぼみ、内外面には薄い自然釉が認められる。３・４は土師器高坏の口縁部。４は明瞭な段をもつ。５は高坏の坏底部。６は高坏脚部で、脚柱部内面に横方向のケズリが施される。７は土師器の甕口縁部である。

図128　3次調査SD-21出土遺物実測図(2)（縮尺1／4）

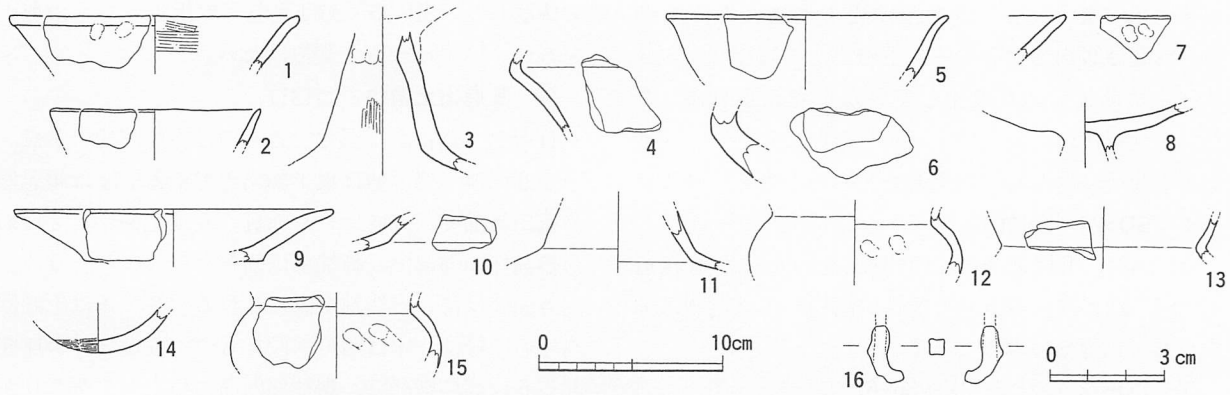


図129　3次調査SD-22出土遺物実測図（縮尺1／4、1／2）

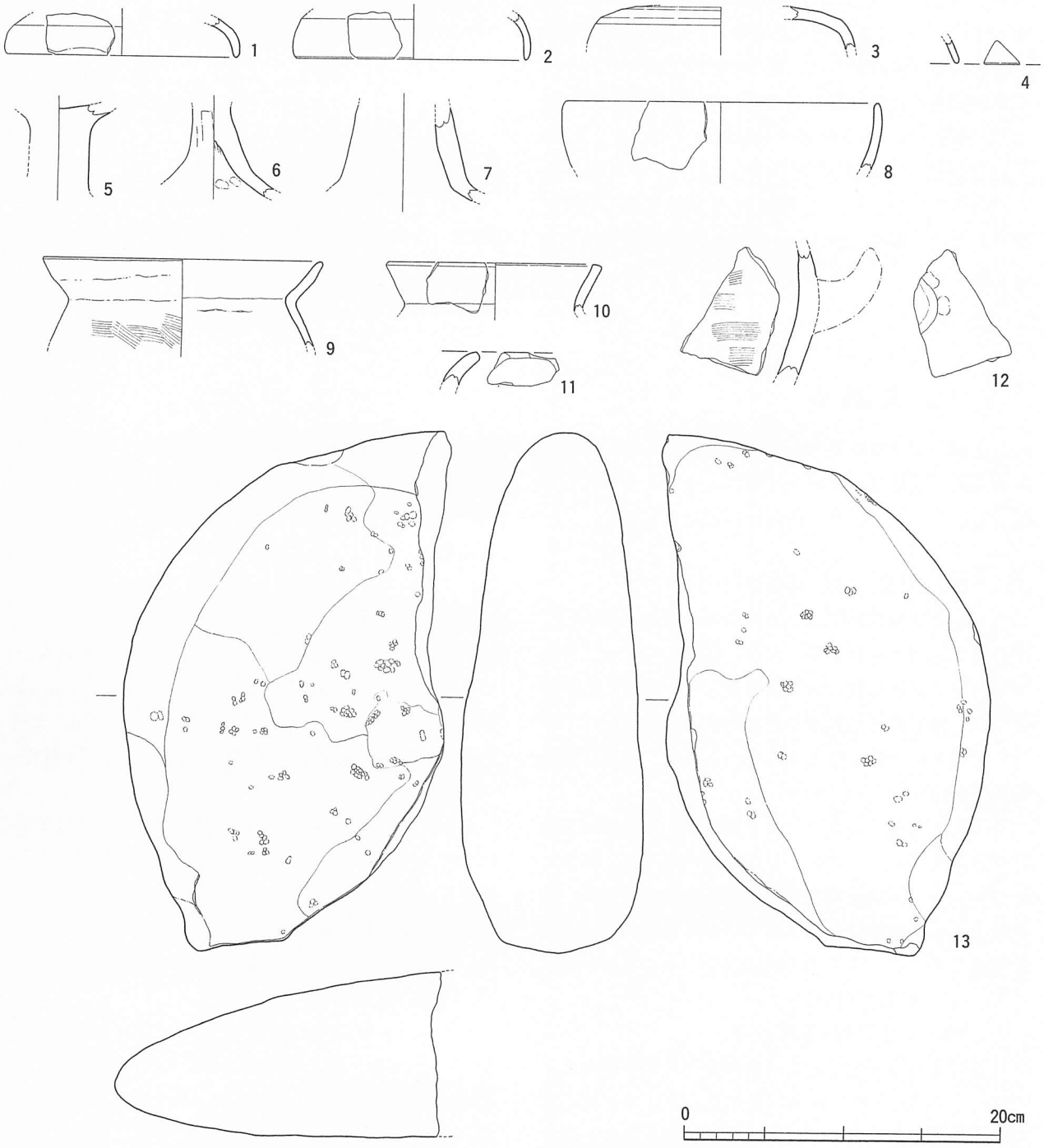


図130　３次調査SD-23出土遺物実測図（縮尺１／４）

(3) 小　結

3次調査Ⅰ区では、柱穴・小穴数基の検出に留まったが、Ⅱ区では南北方向の溝を4条検出したことになる。このうち、SD-28は時期不明ながら、他の溝は遺物を伴い、その変遷が明らかである。まず、SD-22(24)が5世紀中頃に掘削され、数度の埋没・掘り直しを経て5世紀後半に埋没してしまう。続いて6世紀代にSD-23が掘削され、6世紀後半には埋没する。そしてSD-21が掘られ、2度程の掘り直しを経て、7世紀のうちに埋没してしまう。ほぼ間断なく溝の掘削・埋没が続くようで、堆積土層から水路として機能していたことが窺える。

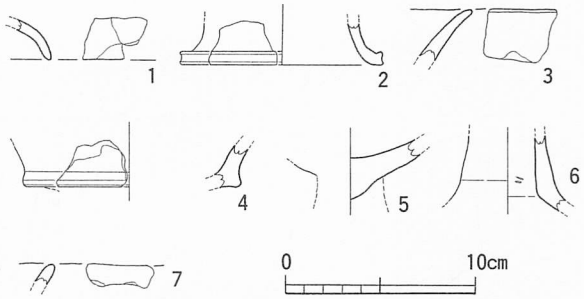


図131　3次調査Ⅱ区Ⅲ層出土遺物実測図(縮尺1/4)

ii　4次調査

4次調査は、新設される排水管路埋設に基づき枝状に調査区が連続し、屈曲や分岐によってⅠ～Ⅶ区に分割している。以下、その区割毎に記述していく。

(1)　Ⅰ区（図132～133、図版37-1･2）

当初、2号棟建物際は、建築時の余掘内と推測して調査対象地域から外していたが、並行して行った管路本体部分の掘削範囲でも攪乱の及んでいないことが確認され、施工業者と協議の上、計画管路部分すべてについて調査を実施することにした。結果、Ⅰ区は総延長20m弱に及ぶ。

この地点では、アスファルト舗装面から約45cmの深さで遺構を検出した。検出した遺構の大半は、杭痕と思われる径10cm前後の小穴で、若干の柱穴が伴う。他に溝を2ヶ所で確認し、Ⅱ区へ広がる竪穴式住居1棟を検出している。溝・竪穴式住居を中心に遺物が出土している（図134、図版43-2）。

①　SD-1（図132、図版37-5）

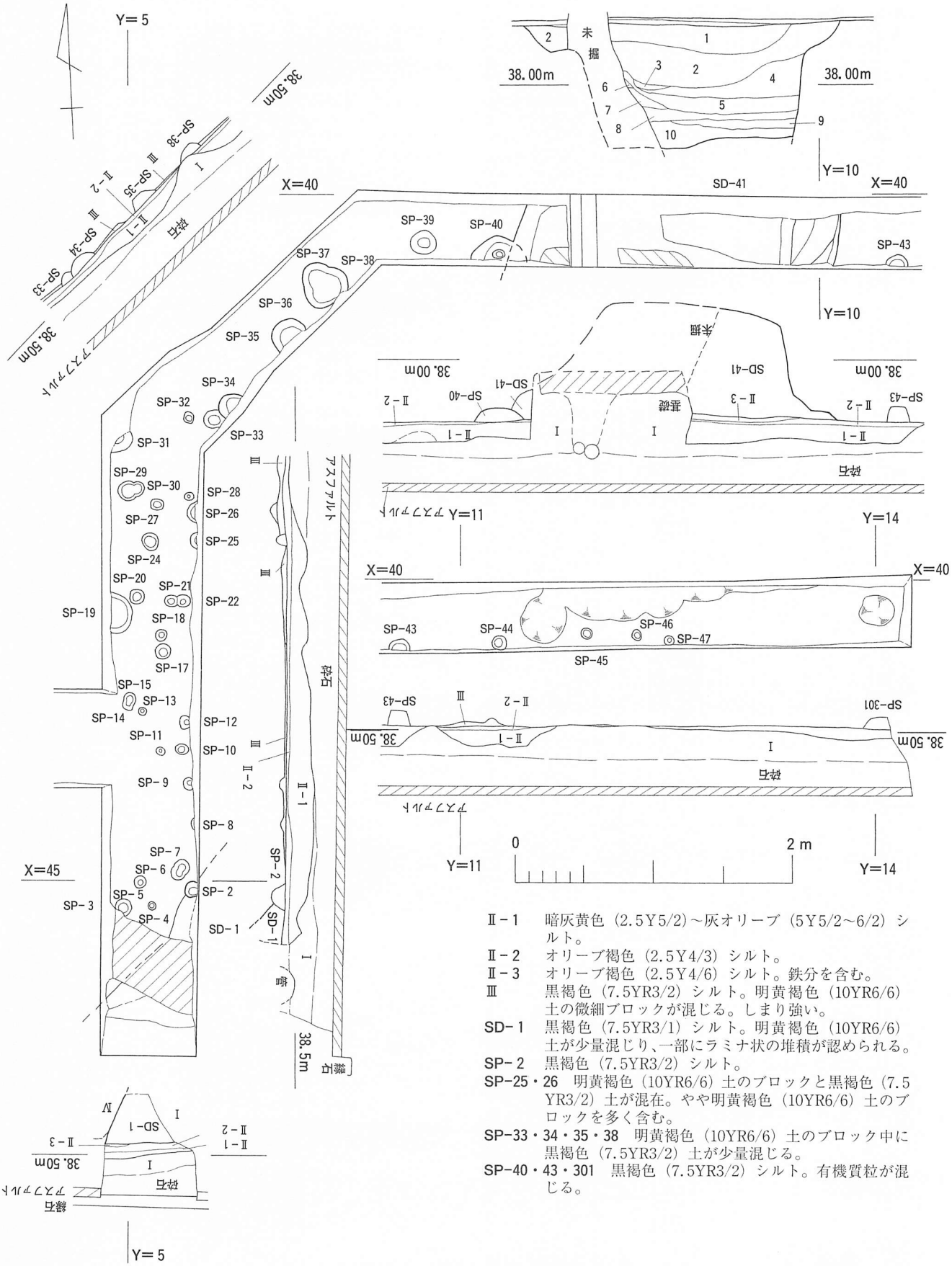
枝管の最南端部分で北東－南西方向の深さ35cm以上のSD-1を確認した。埋土は黒褐色シルトで、地山Ⅳ層の小塊を含み、一部がラミナ状の堆積をなす。後に集水枡設置に伴う追加調査で、その延長部分が確認でき、深さが95cmにも及ぶことが判明した。出土遺物で図化できたのは1点のみ。1は須恵器の蓋で外面にやや弱い稜をもつ。6世紀中頃。

②　SD-41（図132、図版37-3）

2号棟壁際のやや西寄りの地点で、幅約2.3m、深さ80cmのSD-41を検出した。両岸は崩れのためか段をなす。溝の西端部分には既設の管路が2本走り、発掘調査を行えておらず不明であるが、東側の溝の掘り込みは垂直に近く、人工的な溝であることは確かである。上層はシルトが堆積して少量の遺物が混じるのに対して、下層は砂質土が縞状をなして堆積しており、流水が伴う。遺物は、底面付近の砂層から折り重なって出土している。SD-41は位置関係等から、3次調査SD-21の北側延長にあたり、後記するⅣ区のSD-286がさらにその延長の可能性が高い。なお、SD-1はSD-41からの分流と考えられる。

出土遺物の内、図化できたのは13点。2～4は8層以上の上層出土。2はやや小型の須恵器の蓋で、内外面ともに回転ナデが施される。6世紀後半～7世紀初頭。3は須恵器の壺口縁部で、ラッパ状に開き外面に粗い櫛描き波状文が施される。4は土師器の甕口縁部で、内面に横方向のナデが施される。

5～14は9層以下の下層出土。5・6は須恵器の蓋。5は口縁部外面に稜線が明瞭に入る。焼成は不良。6は口縁部の立ち上がりが弱く、やや器高の浅いタイプ。7～9は須恵器の坏部。7は口縁部に接合痕が顕著に残る。10は須恵器高坏の脚裾部で、長方形透かしの下部には凹線状の凹みが見られる。11は小型の碗で、胴中位に浅い沈線文が施される。12は緩やかに外反する須恵器壺の口縁部である。口縁端部は下方に拡張され、端面下半に沈線が1条施される。13・14は土師器甕。13は口縁が緩やかに内湾しながら立ち上が



Ⅱ-1　暗灰黄色（2.5Y5/2）～灰オリーブ（5Y5/2～6/2）シルト。
Ⅱ-2　オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト。
Ⅱ-3　オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト。鉄分を含む。
Ⅲ　黒褐色（7.5YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）土の微細ブロックが混じる。しまり強い。
SD-1　黒褐色（7.5YR3/1）シルト。明黄褐色（10YR6/6）土が少量混じり、一部にラミナ状の堆積が認められる。
SP-2　黒褐色（7.5YR3/2）シルト。
SP-25・26　明黄褐色（10YR6/6）土のブロックと黒褐色（7.5YR3/2）土が混在。やや明黄褐色（10YR6/6）土のブロックを多く含む。
SP-33・34・35・38　明黄褐色（10YR6/6）土のブロック中に黒褐色（7.5YR3/2）土が少量混じる。
SP-40・43・301　黒褐色（7.5YR3/2）シルト。有機質粒が混じる。

図132　４次調査Ⅰ区実測図（縮尺１/40）

図132　SD-41北壁土層注記

1　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトの２～３㎜の丸いブロックが混じる。遺物が混じる。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。１層に比べて砂質が強い。明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトおよび、黄褐色（10YR5/6）砂質シルトの２～３㎝の丸いブロックが混じる。遺物含む。
3　黒色（10YR2/1）シルト。黄褐色（10YR5/6）砂質シルトの２～３㎜の丸いブロックが混じる。
4　黒色（10YR2/1）シルト。黄褐色（10YR5/6）砂質シルト。５～10㎜の明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトの丸いブロックが混じる。土器片が混じる。
5　黒色（10YR2/1）シルト。黄褐色（10YR5/6）砂質シルトの小ブロックが混じる。東側では明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトの幅５㎜の薄いレンズ状ブロックが混じる。
6　黒色（10YR2/1）シルト。黄褐色（10YR5/6）砂質シルトの丸いブロックが多く混じる。
7　黒色（10YR2/1）シルト。黄褐色（10YR5/6）砂質シルトの丸いブロックが多く混じる。６層に比べて砂質が強い。
8　暗褐色（10YR3/3）砂質シルト。明黄褐色（10YR6/6）の丸いブロックが少量混じる。炭化物・土器片が混じる。
9　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。きめは細かい。
10　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトの小指先大のブロック・２～３㎜の砂礫が混じる。炭化物が面的に広がる。古墳時代後期のローリングを受けた土器が層状に混じる。

SP-42

1　黒褐色（10YR3/1）シルト。灰黄褐色（10YR6/2）シルトおよび明黄褐色（10YR7/6）砂質シルトの丸いブロックが多く混じる。鉄分の沈着あり。
2　黒褐色（10YR3/1）シルト。灰黄褐色（10YR6/2）シルトおよび明黄褐色（10YR7/6）砂質シルトの丸いブロックが多く混じる。
3　黒褐色（10YR3/1）シルト。灰黄褐色（10YR6/2）シルトの丸いブロックが多く混じる。
4　黒褐色（10YR3/1）シルト。
5　黒褐色（10YR3/1）シルト。灰黄褐色（10YR6/2）シルトの丸いブロックが多く混じる。
6　黒褐色（10YR3/1）シルト。明黄褐色（10YR7/6）砂質シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。
7　黒褐色（10YR3/1）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/2）の丸いブロックが多く混じる。
8　黒褐色（10YR3/1）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/2）および明黄褐色（10YR7/6）砂質シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。

SC-51　暗褐色（10YR3/3）シルト。小指先～親指程の灰黄褐色（10YR6/2）シルトの丸いブロックが多く混じる。
SP-304　暗褐色（10YR3/3）シルトおよび灰黄褐色（10YR6/2）シルト。
SK-52　暗褐色（10YR3/3）シルト。灰黄褐色（10YR6/2）シルトのブロックおよび少量の炭化物が混じる。
SC-53　暗褐色（10YR3/3）シルト。灰黄褐色（10YR6/2）シルトの２～３㎜の丸いブロックが混じる。
SC-54　暗褐色（10YR3/3）シルト。灰黄褐色（10YR6/2）シルト、明黄褐色（10YR7/6）シルトの２～５㎜の丸いブロックが混じる。しまりあり。
SK-59　暗褐色（10YR3/3）シルト。灰黄褐色（10YR6/2）シルトおよび明黄褐色（10YR7/6）シルトの２～３㎜の丸いブロックが混じる。

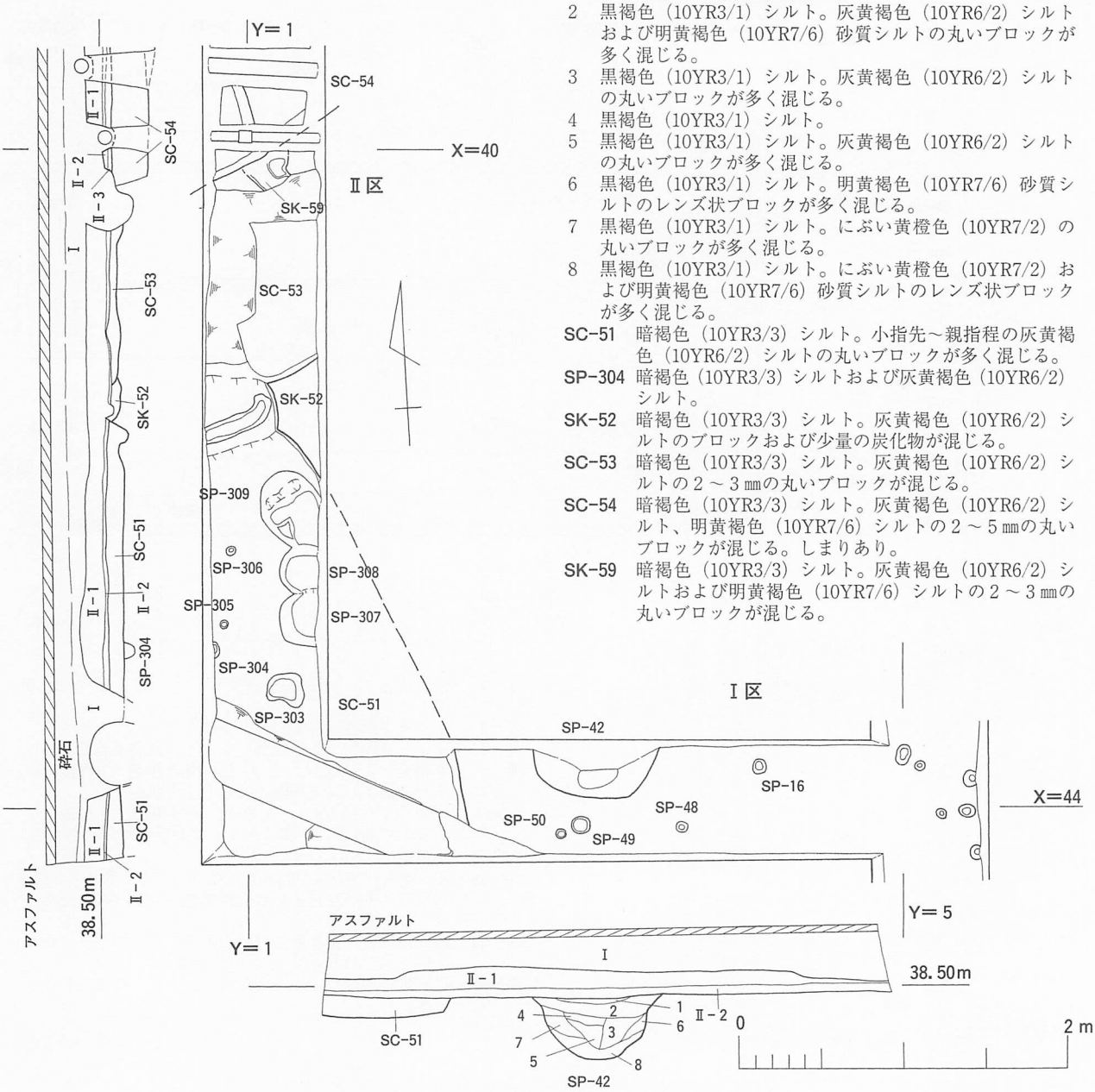


図133　４次調査Ⅰ区・Ⅱ区実測図（縮尺１/40）

る。内外面ともに横ナデ。14は屈曲部から胴上半にかけて、内外面ともに横方向の粗いハケメが施される。

SD-41出土遺物のうち、下層出土遺物は５世紀後半から６世紀後半に位置づけられ、３次調査SD-21下層出土遺物にほぼ一致する。ただし、上層出土遺物は数が少なく、３次調査SD-21中層出土の７世紀に下る遺物は見出せない。

③　**SC-51**（図133、図版37-6）

Ⅰ区西端、Ⅱ区南端で検出した。主軸を北北西－南南東にふる一辺３ｍ以上の方形竪穴式住居。深さ10～15cm程が残り、床面は38.35ｍの標高に位置する。主柱穴は不明。住居の隅部付近には、調査区西壁及び平面で溝状の落ち込みが見られることから、周壁溝をもつと見られる。SC-367と切り合うが、先後関係は不明。

出土遺物で図化できたのは４点。15～17は須恵器の蓋。17は口縁端部外面に刻みを施す。端部内面には不明瞭な内傾する段が見られる。６世紀中頃。18は土師器甕で、口縁部はやや外傾し、屈曲部外面は強い横ナデにより凹む。以上の所見から、竪穴式住居が機能したのは６世紀前葉から中頃と考えられる。

④　**SC-367**（図133・150）

SP-42は、調査区の北壁にそって、柱穴のほぼ半分程度を検出できた。直径約80cmを測る。埋土の観察では、柱痕もしくは抜き取り痕が認められる（図版37-4）。柱間などの検討から、５次調査のSP-24と対応して竪穴式住居（SC-367）の主柱穴をなすと考えられる。図化できなかったが、出土遺物には土師器片が数点ある。

⑤　**柱穴・小穴**

少数の柱穴と杭跡と思われる径10cm前後の小穴を多数検出している。図化できなかったがSP-３からは、土師器片が少量出土し、SP-15周辺のⅢ層から古墳時代後期の土師器甕片・須恵器片が出土している。19はSP-15もしくはⅢ層出土の須恵器の蓋。体部からやや強く屈曲して口縁部にいたる。６世紀後半。

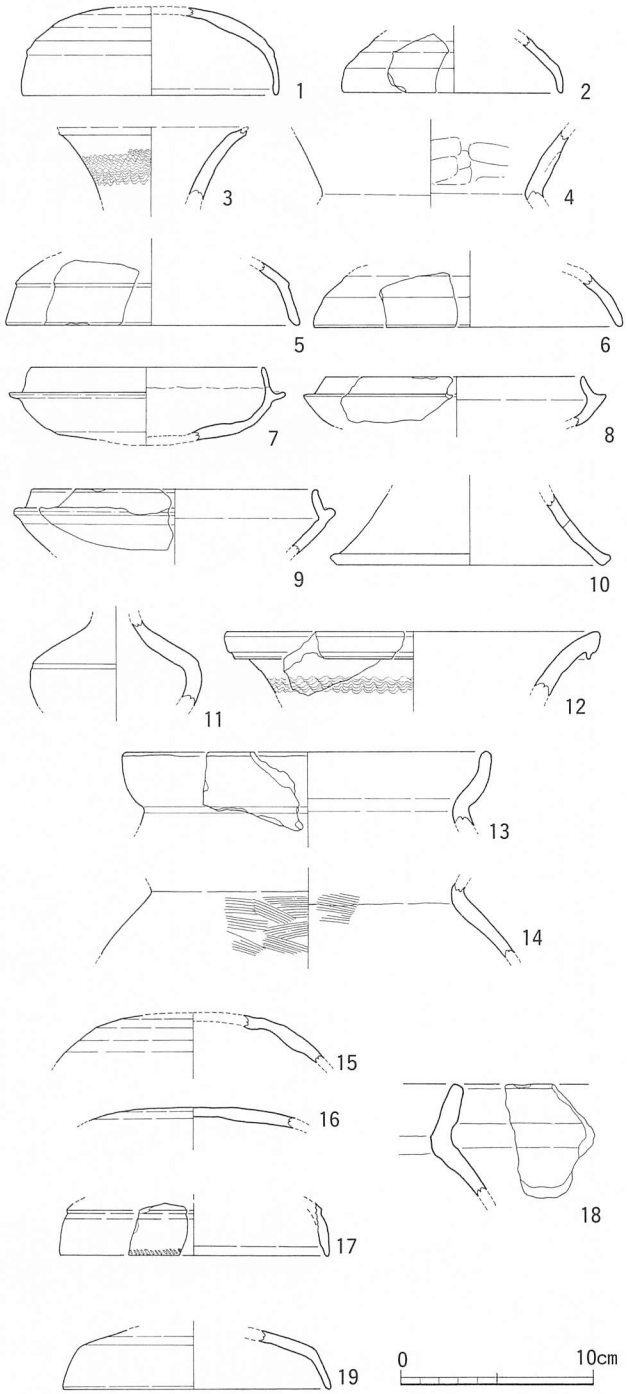


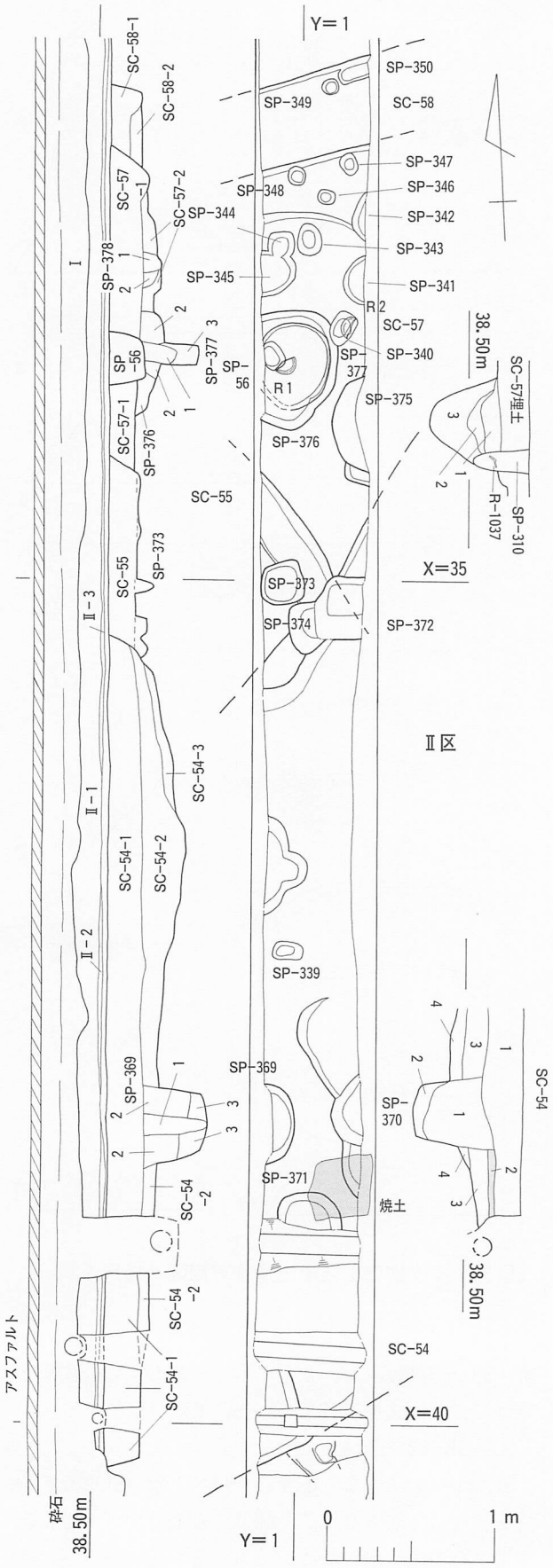
図134　４次調査Ⅰ区出土遺物実測図（縮尺１/４）

⑵　**Ⅱ区**（図133・135・136、図版38-1・2）

Ⅱ区は２号棟西側の南北約17ｍの区間。アスファルト舗装面から約45cmの深さで遺構を検出した。調査区中、最も遺構が集中し、遺物も多い（図137、図版43-1・2）。まず南端に竪穴式住居SC-51があり、わずかに間を空けて、竪穴式住居等（SK-52・SC-53～55・57・58）が重複する。さらにもう一度わずかな間隙を空けて、竪穴式住居（SX-62・SC-61）が存在する。

①　**SK-52**（図133）

SC-51の北に連なる小型の土壙で、SC-51にその南端を辛うじて切られる。土師器片が数点出土。６世紀前半から中頃以前に位置づけられる。



SP-369
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（2.5Y6/6）シルトおよび砂礫が混じる。しまりやや弱く、粘性あり。
2　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。明黄褐色（2.5Y6/6）シルトの3㎜ブロックが多く混じる。
3　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y6/6）シルトのブロック間に黒褐色シルトが混じる。しまり弱い。

SP-370
1　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。SC-54の2層に近似。わずかに粘性強い。
2　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y6/6）シルトのブロック間に黒褐色シルトが混じる。しまり弱い。

SC-54
1　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。褐色（7.5YR4/4）～にぶい褐色（7.5YR5/3）の砂礫、土器細片が多く混じる。しまり強い。
2　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。にぶい赤褐色（5YR4/3）の焼土がラミナ状に混じる。土器含む。
3　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。1層に比べ砂礫の混じり少ない。粘性あり。
4　極暗褐色（7.5YR2/3）シルト。明黄褐色（2.5Y6/6）シルトが混じる。しまり弱い。

SC-55　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。砂礫を多く含む。砂礫のブロックは大きく、しまりあり。

SP-56　黒褐色（7.5YR3/2）シルト。SC-57埋土に比べ砂礫の混じり少ない。やや粘性あり。

SP-310　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。SC-57埋土に比べ砂礫の混じり少なく、均質で粘性高い。

SC-57
1　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。褐色～にぶい褐色の砂礫が多く混じる。しまり強い。
2　黒褐色（7.5YR3/2）シルト。1層に比べ、砂礫が多い。特に上面近くではラミナ状を呈する。

SP-375
1　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。SC-57の1・2層に比べ、砂礫の混じり多く、しまり強い。
2　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y6/6）シルト。ブロック間に黒褐色（7.5YR2/2）シルトが混じる。粘性あり。
3　黒褐色（2.5Y2/2）シルト。1層に比べ、砂礫の混じり少なく、粘性強い。

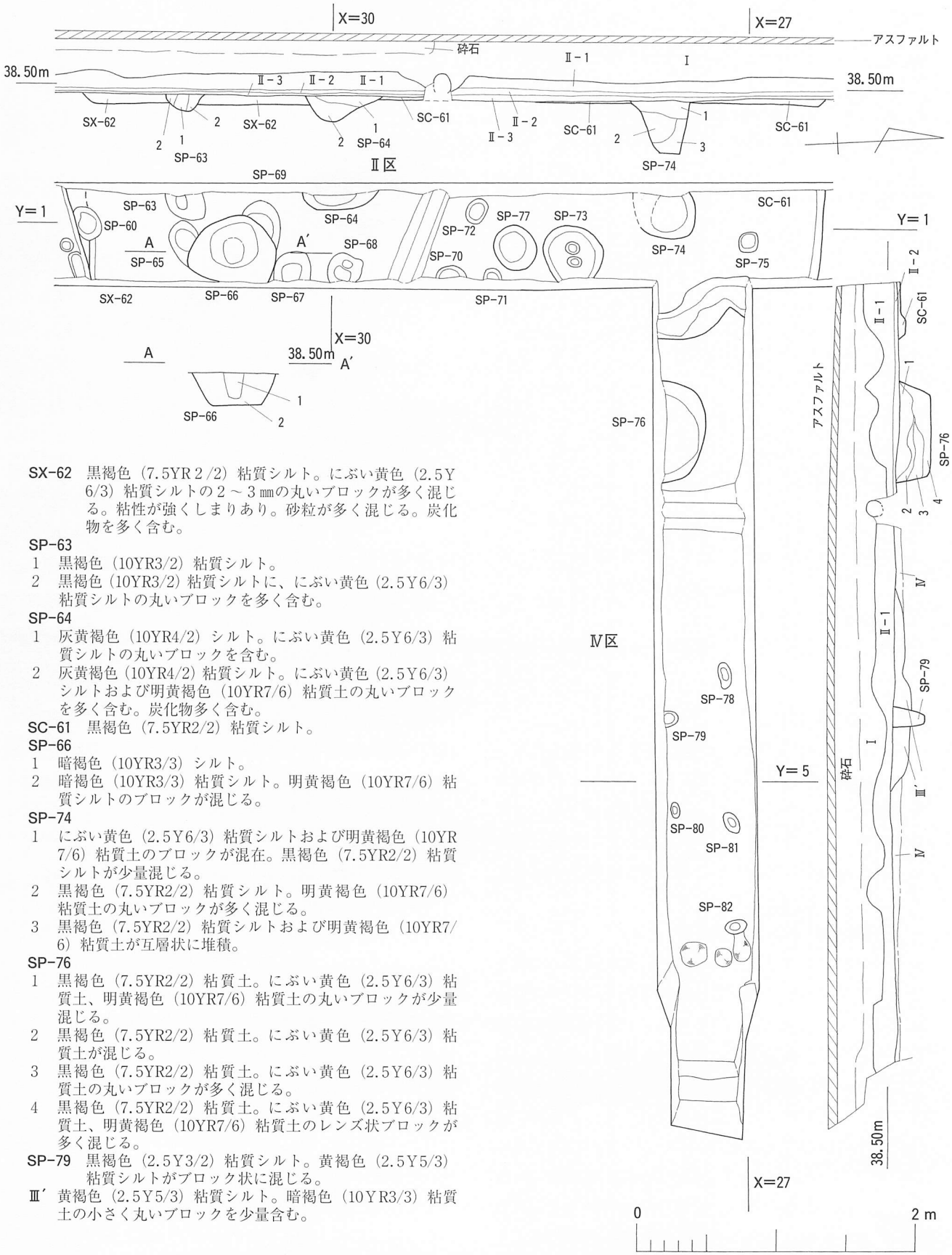
SP-376　暗褐色（7.5YR3/3）シルト。砂礫はSC-57の2層に近いが、粘性ややあり。

SP-377
1　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。砂礫の混在は少なく、粘性あり。しまり弱い。ブロック状堆積。
2　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y6/6）シルトブロックが混じる。
3　黒褐色（10YR2/3）シルト。1層に比べ、明黄褐色（2.5Y6/6）シルトの割合が多い。粘性あり。しまり弱い。

SP-378
1　褐色（10YR4/4）シルト。明黄褐色（2.5Y6/6）シルトのブロックが混じる。
2　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。砂礫の割合はSC-57埋土に比べてやや少ないが、粘性あり。

SC-58
1　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。SC-57の1層に比べ、砂礫の割合やや少ない。しまりあり。
2　黒褐色（2.5Y3/2）シルト。褐色（10YR4/4）シルトが混じる。しまりあり。砂礫多い。

図135　4次調査Ⅱ区実測図（縮尺1/40）



SX-62　黒褐色（7.5YR２/2）粘質シルト。にぶい黄色（2.5Y 6/3）粘質シルトの２～３㎜の丸いブロックが多く混じる。粘性が強くしまりあり。砂粒が多く混じる。炭化物を多く含む。

SP-63
1　黒褐色（10YR3/2）粘質シルト。
2　黒褐色（10YR3/2）粘質シルトに、にぶい黄色（2.5Y6/3）粘質シルトの丸いブロックを多く含む。

SP-64
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト。にぶい黄色（2.5Y6/3）粘質シルトの丸いブロックを含む。
2　灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト。にぶい黄色（2.5Y6/3）シルトおよび明黄褐色（10YR7/6）粘質土の丸いブロックを多く含む。炭化物多く含む。

SC-61　黒褐色（7.5YR2/2）粘質シルト。

SP-66
1　暗褐色（10YR3/3）シルト。
2　暗褐色（10YR3/3）粘質シルト。明黄褐色（10YR7/6）粘質シルトのブロックが混じる。

SP-74
1　にぶい黄色（2.5Y6/3）粘質シルトおよび明黄褐色（10YR 7/6）粘質土のブロックが混在。黒褐色（7.5YR2/2）粘質シルトが少量混じる。
2　黒褐色（7.5YR2/2）粘質シルト。明黄褐色（10YR7/6）粘質土の丸いブロックが多く混じる。
3　黒褐色（7.5YR2/2）粘質シルトおよび明黄褐色（10YR7/6）粘質土が互層状に堆積。

SP-76
1　黒褐色（7.5YR2/2）粘質土。にぶい黄色（2.5Y6/3）粘質土、明黄褐色（10YR7/6）粘質土の丸いブロックが少量混じる。
2　黒褐色（7.5YR2/2）粘質土。にぶい黄色（2.5Y6/3）粘質土が混じる。
3　黒褐色（7.5YR2/2）粘質土。にぶい黄色（2.5Y6/3）粘質土の丸いブロックが多く混じる。
4　黒褐色（7.5YR2/2）粘質土。にぶい黄色（2.5Y6/3）粘質土、明黄褐色（10YR7/6）粘質土のレンズ状ブロックが多く混じる。

SP-79　黒褐色（2.5Y3/2）粘質シルト。黄褐色（2.5Y5/3）粘質シルトがブロック状に混じる。

Ⅲ′　黄褐色（2.5Y5/3）粘質シルト。暗褐色（10YR3/3）粘質土の小さく丸いブロックを少量含む。

図136　４次調査Ⅱ区・Ⅳ区実測図（縮尺１/40）

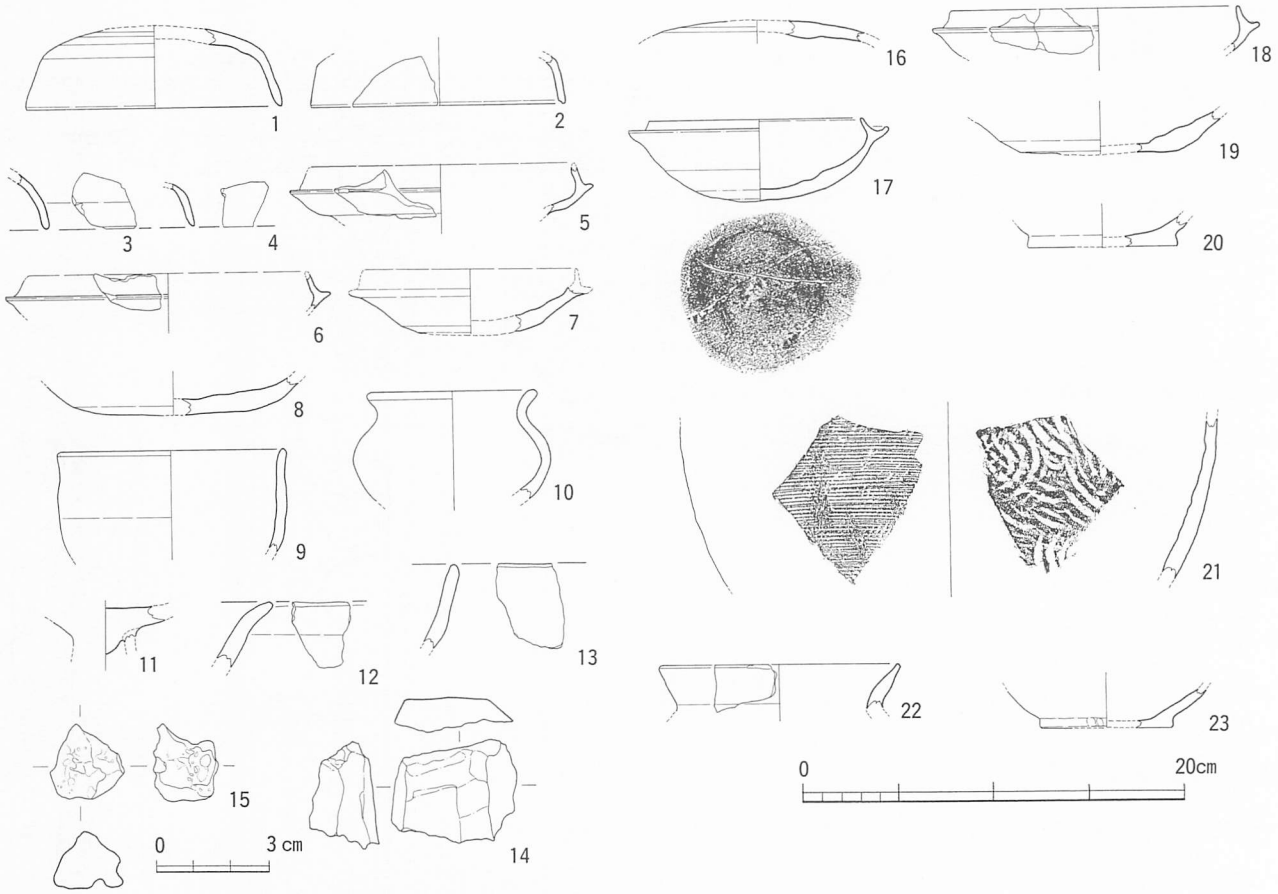


図137　4次調査Ⅱ区出土遺物実測図（縮尺1／4、1／2）

② **SC-53**（図133）

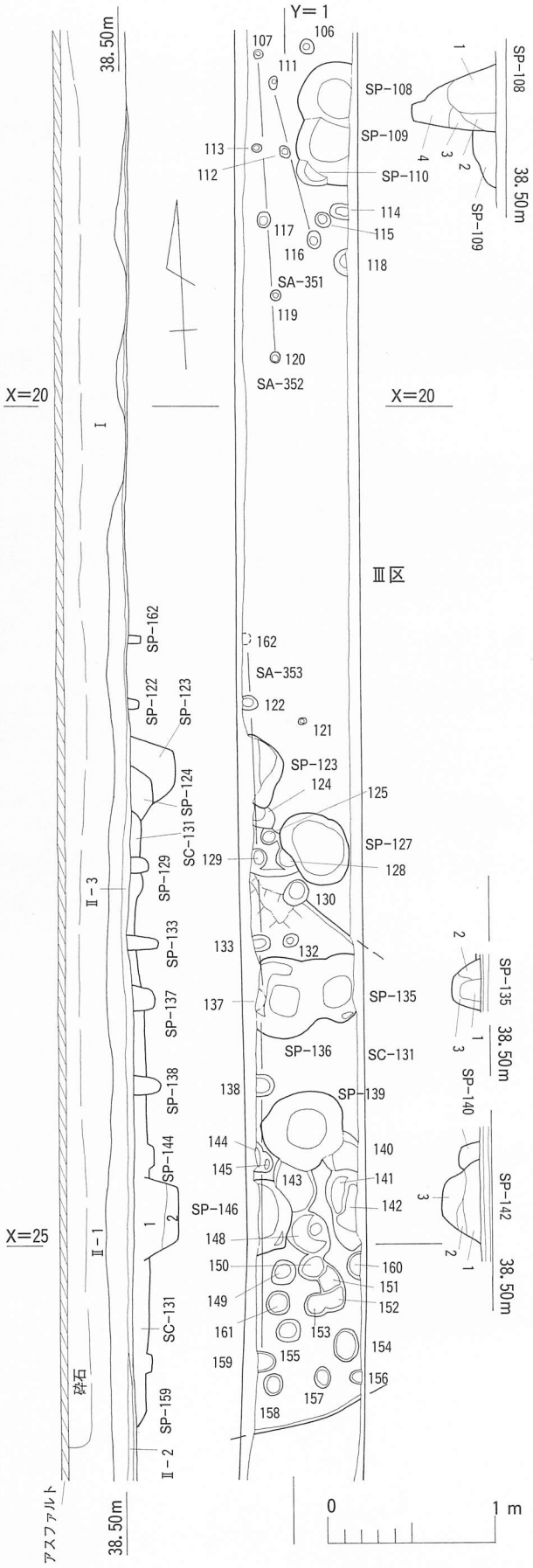
SC-53は、SK-52を切るが、北をSC-54に切られて、1m程の範囲が残るのみ。SC-51に主軸を平行させる方形竪穴式住居と考えられる。残存する深さがわずか10cm程度と微妙ながら、SC-51に切られていると考える。遺物は出土していない。切り合い関係から6世紀後半前後に位置づけられる。

③ **SC-54・SC-366**（図135・150）

先の『年報』では溝として報告しているが、主軸を北西－南東にふる一辺約5mを測る方形の竪穴式住居SC-54とした。SC-53・55を切る。床面は標高38.20m付近にあり、床面下には北側のみ周溝状の落ち込みが巡る。調査区東壁に沿って面的に広がる焼土層が確認でき、竈に関連する堆積の可能性も考えられる。主柱穴の可能性が考えられるのは、SP-369～371である（図版38-4・5）。ただし、SP-369は5次調査SP-20と同一の柱穴と考えられ、柱間等の検討から5次調査SP-32とともに、竪穴式住居（SC-366）の主柱穴をなす可能性が高い。SC-54とSC-366とは建物の向きが異なることから、SC-366はSC-54に先行する別遺構の可能性が高い。したがって、SC-54の主柱穴はSP-370・371もしくは調査区外と考えられる。

SC-54からは須恵器・土師器が多数出土している。図化できたのは15点。1～4は須恵器の蓋。6世紀後半～7世紀初頭。5～8は須恵器の坏。6は内外面とも赤褐色。6世紀中頃～7世紀前葉。9は須恵器鉢の口縁部。胴部はほとんど張らず、口縁部はわずかに外反し、端部は丸く収める。7世紀。10は須恵器の小壺で、胴が強く張り、口縁部が短く外反する。11は土師器高坏の坏底部。12は鉢の口縁部で、口縁部に傾斜変換点をもち、先端付近でわずかに屈曲する。13は土師器甕の口縁部である。14は砂岩製砥石。15は鉄滓。

以上の他に、SC-54～58出土として取り上げた遺物には、土師器甕・甑、須恵器が多数見られる。図化できたのは18～20である。18・19は須恵器の坏である。6世紀後半。20は土師器坏の底部で、10世紀。SP-310からも同時期の土師器坏が出土しており、SC-54～58埋土中には同様の柱穴が存在していたと考えられる。



SP-108
1　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト。下部を中心に明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。
2　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトのブロックが多く混じる。やや粘性が強い。
3　浅黄色（2.5Y7/4）シルト。
4　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト。１～３層に比べて明黄褐色（10YR7/6）シルトブロックの割合は少ない。

SP-109　黒褐色（2.5Y3/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）のブロックが多く混じる。

SP-122　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルトがブロック状に混じる。

SP-123　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR6/3）シルトおよび明黄褐色シルト（10YR7/6）の丸いブロックが多く混じる。

SP-124　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。

SP-129　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルト、にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトの丸いブロックが多く混じる。

SC-131　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト、浅黄橙色（10YR8/3）砂質土、明黄褐色（10YR7/6）シルトのブロックが多く混じる。しまりあり。

SP-133　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトの丸いブロックが混じる。

SP-135
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの２～３㎜の丸いブロックが多く混じる。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの２～３㎜の丸いブロックが多く混じる。１層に比べて明黄褐色（10YR7/6）シルトのブロックの割合が多い。
3　黒褐色（10YR2/2）シルト。黄色（2.5Y8/8）シルトの３～４㎜の丸いブロックが混じる。

SP-137　黒褐色（10YR2/2）シルト、にぶい黄橙色（10YR7/3）砂質土、浅黄橙色（10YR8/3）砂質土の丸いブロックが多く混じる。

SP-138　黒褐色（10YR2/2）シルト、にぶい黄橙色（10YR7/3）粘質シルト。

SP-139　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトのブロックが多く混じる。

SP-140　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。

SP-142
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトおよび明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロック、炭化物が多く混じる。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが混じる。
3　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトの大型ブロックが多く混じる。炭化物あり。

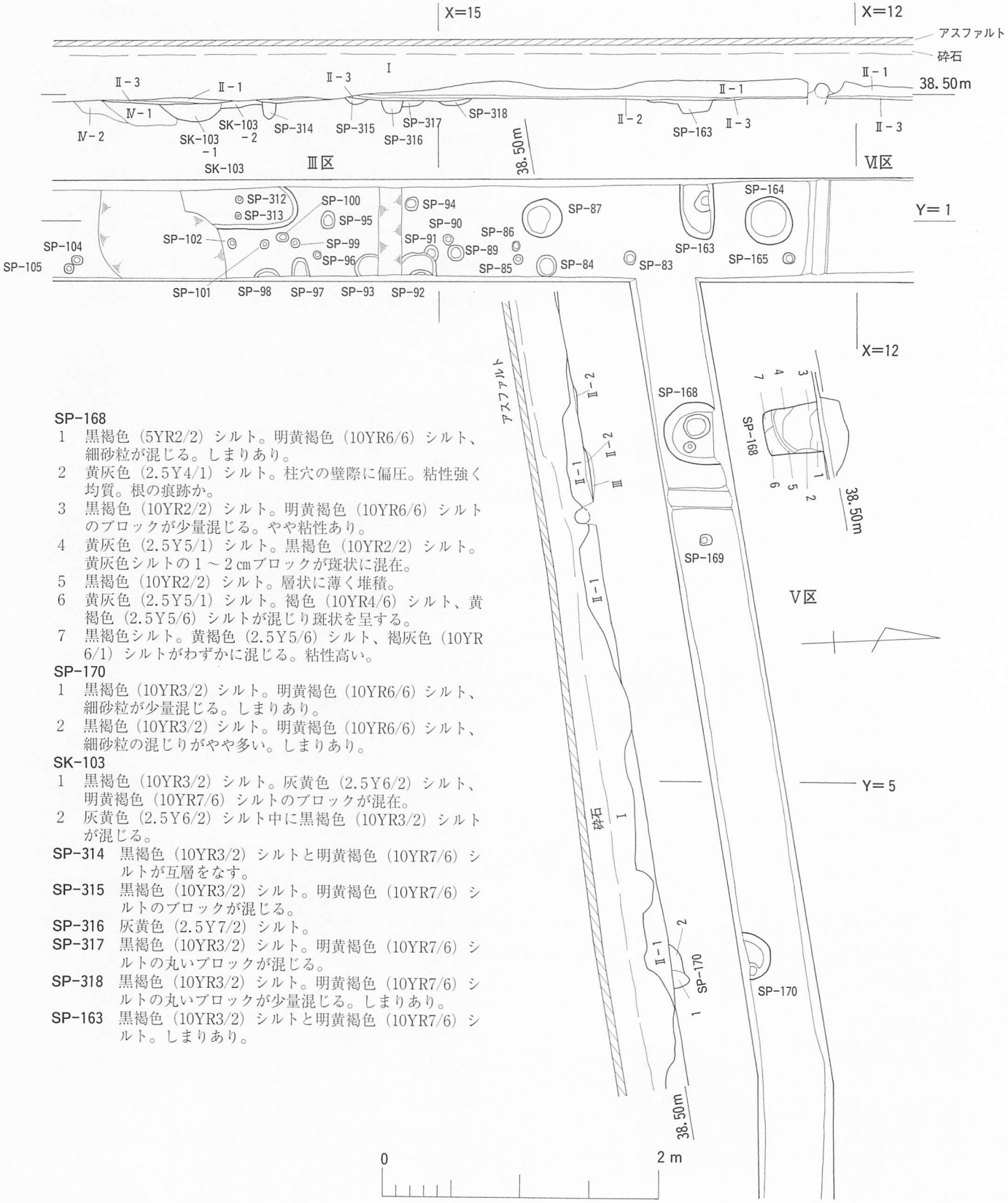
SP-144　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトの丸いブロックが少量混じる。

SP-146
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト、浅黄橙色（10YR7/3）砂質土、明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。

SP-159　黒褐色（10YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトの丸いブロックが混じる。

SP-162　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト。

図138　４次調査Ⅲ区実測図（縮尺１/40）
（遺構名「SP-」一部省略）



SP-168

1　黒褐色（5YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルト、細砂粒が混じる。しまりあり。
2　黄灰色（2.5Y4/1）シルト。柱穴の壁際に偏圧。粘性強く均質。根の痕跡か。
3　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルトのブロックが少量混じる。やや粘性あり。
4　黄灰色（2.5Y5/1）シルト。黒褐色（10YR2/2）シルト。黄灰色シルトの１～２cmブロックが斑状に混在。
5　黒褐色（10YR2/2）シルト。層状に薄く堆積。
6　黄灰色（2.5Y5/1）シルト。褐色（10YR4/6）シルト、黄褐色（2.5Y5/6）シルトが混じり斑状を呈する。
7　黒褐色シルト。黄褐色（2.5Y5/6）シルト、褐灰色（10YR6/1）シルトがわずかに混じる。粘性高い。

SP-170

1　黒褐色（10YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルト、細砂粒が少量混じる。しまりあり。
2　黒褐色（10YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルト、細砂粒の混じりがやや多い。しまりあり。

SK-103

1　黒褐色（10YR3/2）シルト。灰黄色（2.5Y6/2）シルト、明黄褐色（10YR7/6）シルトのブロックが混在。
2　灰黄色（2.5Y6/2）シルト中に黒褐色（10YR3/2）シルトが混じる。

SP-314　黒褐色（10YR3/2）シルトと明黄褐色（10YR7/6）シルトが互層をなす。
SP-315　黒褐色（10YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトのブロックが混じる。
SP-316　灰黄色（2.5Y7/2）シルト。
SP-317　黒褐色（10YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが混じる。
SP-318　黒褐色（10YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが少量混じる。しまりあり。
SP-163　黒褐色（10YR3/2）シルトと明黄褐色（10YR7/6）シルト。しまりあり。

図139　４次調査Ⅲ区・Ⅴ区実測図（縮尺１/40）

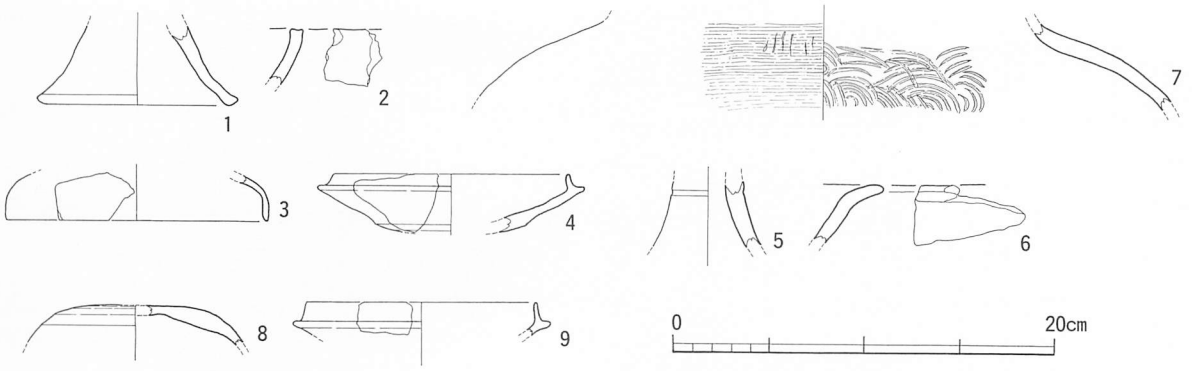


図140　４次調査Ⅲ区出土遺物実測図（縮尺１／４）

以上、SC-54からは６世紀中頃～７世紀初頭の遺物が多数見られるが、最新相の遺物（７・９）から、SC-54は７世紀前葉に位置づけられる。

④　**SC-55**（図135）

SC-57を切り、SC-54に切られる。調査区の一部に、遺構の北東端が約80cm見られるのみで、遺構の平面プランは不明である。調査区西壁土層の観察では、遺構の北側立ち上がり近くで周溝状に小さく落ち込み、底面が水平面を形成していることから、竪穴式住居の可能性が高い。埋土中出土の遺物は、先に掲げた18～20の他に土師器片が１点あるのみである。６世紀末～７世紀前葉に位置づけられる。

⑤　**SC-57**（図135）

SC-58を切り、SC-55・SP-56に切られる。SP-375（図版38-6）もしくはSP-376・377が主柱穴と考えられる。SC-54同様に床面下には周溝状の落ち込みが巡る。西壁土層では、北側の遺構の立ち上がりに沿って、周壁溝が認められる。

SC-57出土遺物からは２点が図化できた。16は須恵器蓋の天井部である。17はSP-56出土Ｒ１とSC-57出土Ｒ２が接合した須恵器坏の完形品である（図版38-3）。底部外面にヘラ記号が刻まれる。これらからSC-57は６世紀末～７世紀前葉に位置づけられる。

⑥　**SC-58**（図135）

SC-57に切られる。南北方向にわずか50cmほど確認したのみだが竪穴式住居と考えられる。西壁土層の観察から住居の壁に沿って周壁溝が伴う。床面は南側のSC-57より一段高い。出土遺物は、先に掲げた18～20のみである。６世紀末～７世紀前葉以前に位置づけられる。

⑦　**SK-59**（図133）

SC-54に切られる土壙。形状不明で、出土遺物もない。切り合い関係から７世紀前葉以前。

⑧　**SC-61**（図136、図版39-2）

調査段階では、埋土と底面のレベルの違いから、SX-62とは別遺構と認識した。ただし、一連の遺構と考えると、南北約5.2mを測る竪穴式住居となり、方形を呈する。図化できないが、埋土中から土師器片が数点出土している。

⑨　**SX-62**（図136）

SC-61と一連の遺構の可能性がある。遺構底面近くのみの残存状況で、平面プランは不明。埋土中から土師器・須恵器が数点出土している。21は須恵器の甕の胴部片である。外面にはカキメ調整、内面には青海波文が施される。

⑩　**SC-365**（図136・150）

調査区西壁に沿ってSP-64を検出した。柱間等の検討から、５次調査SP-10と対応して、竪穴式住居（SC-365）の主柱穴となる可能性が考えられる。竪穴式住居の平面プランは不明である。

⑪　**柱穴・小穴**

SP-66は、柱痕も確認されており、竪穴式住居の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴の可能性が高い（図版39-3）。22はSP-66出土で、土師器甕の口縁部である。SP-68からは、図化できないが土師器片が１点出土している。SP-74は、SC-61床面で検出した（図版39-4）。SP-310は調査区東壁面で検出（図135）。径約14cmで、SC-57を切る。埋土は、SC-57埋土に比べて粘性が高い。23がSP-310出土。土師器坏の底部で、立ち上がりに指頭圧痕が顕著で体部は内湾する。10世紀。

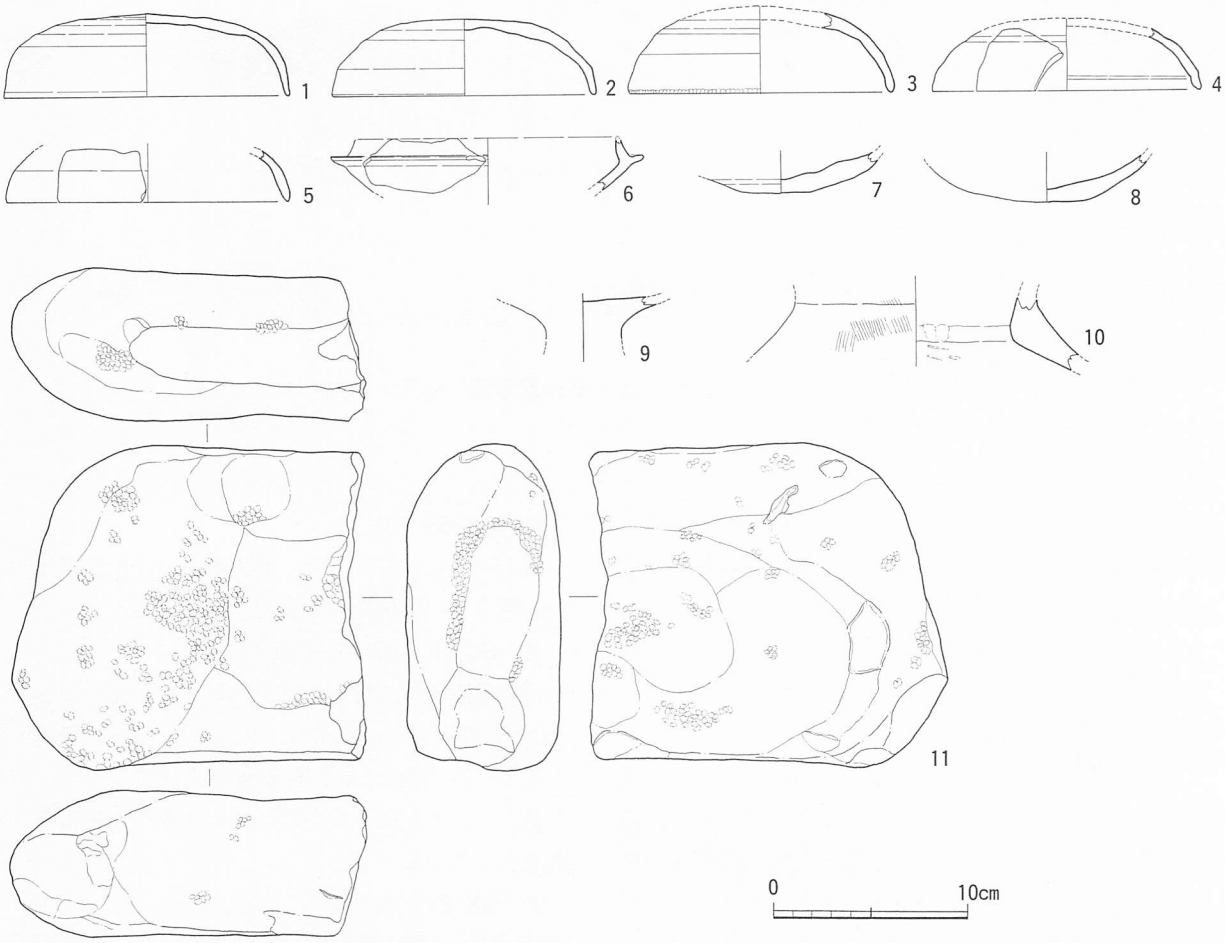


図141　4次調査Ⅳ区出土遺物実測図（縮尺1／4）

(3)　**Ⅲ区**（図138・139）

Ⅲ区はⅣ区とⅤ区が分岐する間の南北約13m。Ⅱ区のSC-61の北にほぼ隣接してSC-131がある。SC-131周辺の柱穴には、竪穴式住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴の可能性が想定される場合が多く、複数の復元案が提示できる。また、柵列1基(SA-353)が想定できる。SC-131より北は、土壙1基（SK-103）と柱穴・小穴を若干確認しており、その中には2基の柵列（SA-351・352）が想定できる。出土遺物はやや少ない（図140）。

①　**SC-131**（図138、図版40-1）

SC-61の北に、わずかの地山面を挟んでSC-131がある。北西－南東に主軸をふる竪穴式住居で、隅丸方形となるものと思われる。規模は不明。出土遺物もない。

②　**SK-103**（図138）

西壁際、南側を攪乱に切られているが、本来は幅約50cm・長120cm程の長楕円形の土壙と推定される。埋土は、Ⅳ層ブロックを含む黒褐色シルト。出土遺物はない。

③　**SA-351**（図138）

いずれも径10cm程の、SP-111・112・116からなる柵列。柱補強の埋土もなく杭を打ち込んだだけの簡素な構造。埋土は黒褐色シルト。

④　**SA-352**（図138）

径10cm程の、SP-107・113・117・119・120からなる柵列。埋土は黒褐色シルト。

⑤　**SA-353**（図138）

径10cm程の、SP-162・122・129・133・137・138・144・159が、調査区西壁に沿って約4mにわたって見られる。埋土は黒褐色シルトが主体。

⑥　**SB-361、SC-362、SC-363**（図150）

5次調査SP-15を軸に複数の復原案が提示できる。まず、4次調査SP-127、5次調査SP-6・15の組み合わせを想定したのが、掘立柱建物SB-361。4次調

査SP-136と５次調査SP-15を主柱穴とする竪穴式住居としたのがSC-362。４次調査SP-135と５次調査SP-15を主柱穴とする竪穴式住居とするのがSC-363である。いずれの場合も、５次調査出土遺物から６世紀前葉以降に位置づけられる。

⑦　**SC-364**（図150）

SP-123・139を主柱穴とすると想定した竪穴式住居である。１・２がSP-123出土。１は須恵器高坏の脚裾部。２は土師器の甕口縁部で、直立気味に立ち上がる。SP-139からは土師器甕胴部片が出土。６世紀後半以降の年代が与えられる。

⑧　**柱穴・小穴**

以上の他にも、SP-142（図版40-2）、135（図版40-3）、108・109（図版40-5）等、しっかりした柱穴が幾つかある。柱穴・小穴出土遺物で図化できたのは７点。３～６はSP-129出土。３は須恵器の蓋。４は須恵器の坏。５は須恵器の高坏脚部で、脚柱部に沈線１条が施される。６は土師器鉢の口縁部で、口縁先端で外方に屈曲する。６世紀末～７世紀初頭と考えられる。７はSP-136出土の須恵器甕の胴部片。外面はタタキ後、横方向のカキメ、内面に青海波文が施される。他に土師器甕片も出土している。８・９はSP-146出土。９は須恵器の坏身である。６世紀後半～末。さらにSP-146からは土師器片が少量出土。図化していないが、SP-141・142では土師器甕片と甑片が出土している。

⑷　**Ⅳ区**（図122・136、図版39-5）

Ⅳ区は２号棟北に位置する。当初調査区を設定していた６ｍほどの範囲では、柱穴・小穴をわずかに検出したのみで、遺物も出土していない。それ以東は、供用中の管路があり調査対象外としていたが、５次調査の際に、排水管敷設業者から掘削に伴って遺跡が発見されたとの通報を受け、溝１条（SD-286）を検出し、遺物も出土した（図141、図版43-5～44-1）。

①　**SD-286**（図122）

Ⅱ・Ⅲ区から約20ｍ東の地点、標高約38.40ｍで検出した。幅約4.5ｍの落ち込みで溝状を呈するものと推測し、SD-286とした。若干南西－北東にふるらしく、３次調査SD-21、４次調査SD-41に続く溝の可能性が高い。およそ遺構の上面５～10cmほどの掘削範囲内のみを調査したが、遺物は比較的多い。

出土遺物から図化したのは11点。１～５は須恵器の蓋。３の口縁端部外面には刻目が見られる。６・７は須恵器の坏。８は須恵器の壺もしくは甕の底部で、丸底であったものが自重で平底化している。９は土師器高坏の坏底部で、脚部は中実。10は壺の頸部で外面に縦方向のハケメ、内面にケズリが施される。11は扁平な砂岩の上面と側面を砥面として利用しており、上面には敲打痕が残る。SD-286出土遺物は、６世紀後半前後で、３次調査SD-21下層出土遺物、４次調査Ⅰ区SD-41下層出土遺物にほぼ一致する。

②　**柱穴・小穴**

SP-76（図版39-6）は調査区南壁に沿って検出した。土層から建物に伴う可能性が高い。また、SP-78・81・82は、等間隔ではないものの直線的に並んでおり、柵列になる可能性も考えられる。

⑸　**Ⅴ区**（図139・142）

Ⅴ区は１号棟南の約10ｍの間。この地点も本来の計画では調査対象から外していたが、Ⅰ区同様に、遺構の残存が確認されたため、急遽調査対象とした。Ⅱ層直下、西端で深さ40cm、東端で深さ55cmで遺構を検出した。Ⅲ区北部同様に、西半は遺構がまばらで、東半も柱穴・小穴がほとんどで、他にSD-181とSK-189があるのみ。出土遺物も少ない（図143）。

①　**SD-181**（図142）

幅１ｍ程の落ち込み。深さは10cm程度で、２号棟の南北で検出したSD-１・41・286に直接は連ならないと考えられる。埋土はオリーブ褐色のシルトを主体とする。

②　**SK-189**（図142）

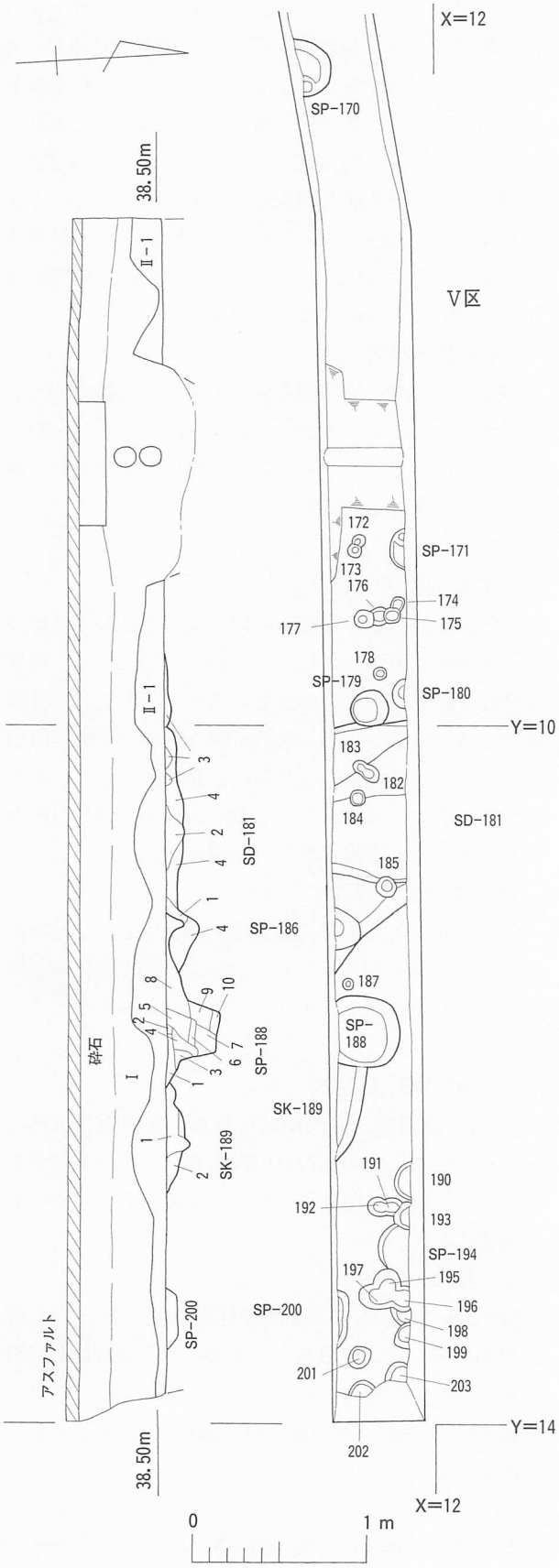
SD-181の西側、SP-188に切られ、北は調査区外へ延びる土壙。幅約60cmのみの検出だが、浅いⅢ状と推定される。埋土は黒褐色～オリーブ褐色のシルト。出土遺物はない。

③　**柱穴・小穴**

SP-168（図版40-6）は掘立柱建物等の柱穴の可能性が高いが、対応する柱穴が不明。SP-188はSD-181の東に位置する柱穴。土師器片と１の須恵器坏底部片が出土している。その他にSP-190でも土師器の細片が出土している。

⑹　**Ⅵ区**（図144・146、図版40-4）

Ⅵ区はⅤ区の分岐以北、Ⅶ区への屈曲以南の約13ｍの区間。アスファルト面から約45cmほどの深さで遺構



SP-188

1 黒褐色（10YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルトの微細粒を含む。しまりあり。
2 黄褐色（2.5Y5/6）シルトのブロック。
3 黒褐色（10YR2/2）シルト。1層に比べ明黄褐色（10YR6/6）シルトの微細粒が少量混じる。
4 黄褐色（2.5Y5/4）シルト。黒褐色（10YR3/2）シルトがラミナ状に混じる。
5 黒色（10YR2/1）シルト。わずかに明黄褐色（10YR6/6）土のブロックが混じる。
6 褐色（10YR4/4）シルト。黒褐色（10YR3/2）シルトがわずかに混じる。
7 暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルトの5㎜の細粒が多く混じる。しまりあり。
8 暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR6/6）土シルトの細粒が多く混じる。しまりあり。
9 黒褐色（10YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）土シルトの細粒が少量混じる。
10 黒褐色（10YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）土シルトの細粒が少量混じる。粘性あり。

SP-200 黒褐色（10YR2/2）シルト。砂礫、明黄褐色（10YR6/6）シルトの細粒が多く混じる。しまりあり。

SK-189

1 黒褐色（10YR2/2）シルト。砂礫、明黄褐色（10YR6/6）シルトの細粒が混じる。しまりあり。
2 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルト中にわずかに黒褐色（7.5YR3/2）シルトが混じる。

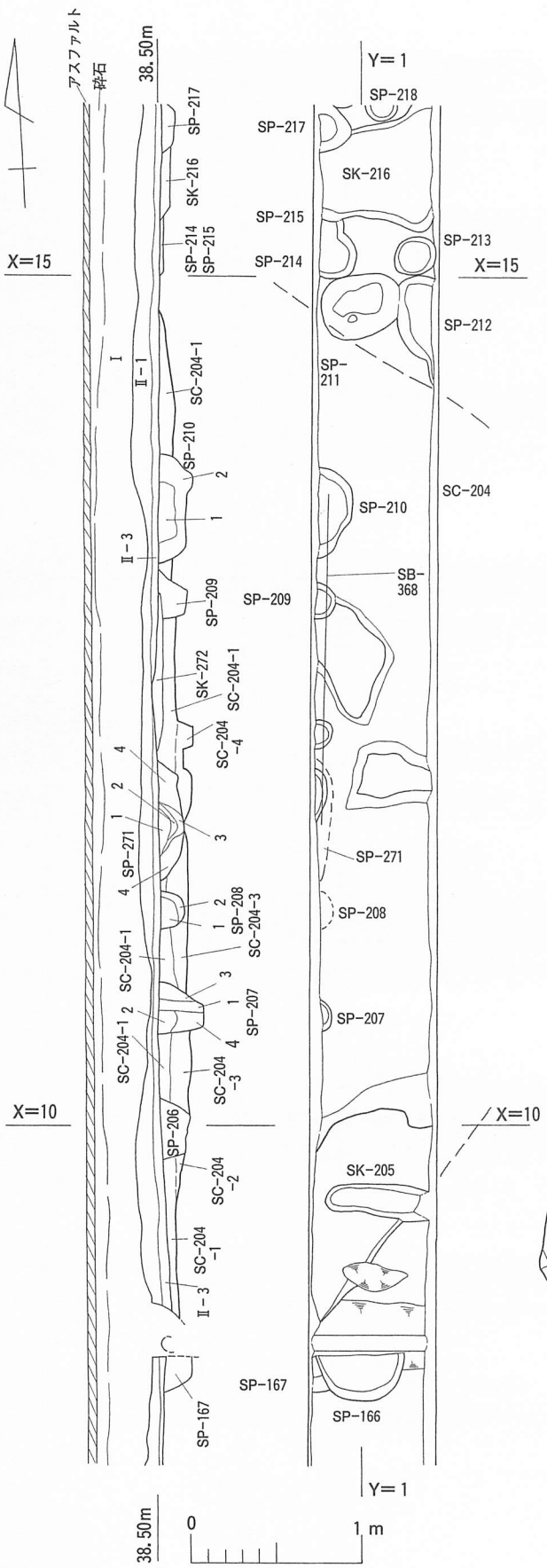
SD-181

1 暗褐色（10YR3/4）シルト。粘性あり。
2 暗褐色（10YR3/4）砂質シルト。しまり弱い。
3 黒褐色（10YR2/2）シルト。砂礫、明黄褐色（10YR6/6）シルトの細粒が混じる。ややしまりあり。
4 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト。黒褐色（7.5YR3/2）シルト、明黄褐色（10YR6/6）シルトが斑状に混じる。しまり弱い。

図142　4次調査V区実測図（縮尺1/40）

（遺構名「SP-」一部省略）

図143　4次調査V区出土遺物実測図（縮尺1/4）



SC-204
1　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/2）シルトの丸いブロックが少量混じる。造成土に比べブロックの割合少ない。
2　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。にぶい黄橙色（10YR7/3）シルトの丸いブロックが少量混じる。
3　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトとにぶい黄橙色（10YR7/3）シルトがブロック状に混じる。
4　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトと黄橙色（10YR8/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。

SP-207
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが少量混じる。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。
3　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。明黄褐色シルトのブロックが多く混じる。
4　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。明黄褐色シルトのブロックが混じる。

SP-208
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。１～２㎜の明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが少量混じる。
2　灰黄褐色(10YR4/2)シルト。１～２㎜の明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが少量混じる。

SP-271
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。１～２㎜の明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが少量混じる。
3　黒褐色（10YR2/2）シルト。１～２㎜の明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。
4　黒褐色（10YR2/2）シルト。やや粘性が強い。

SK-272　黒褐色（10YR2/2）シルト。

SP-209　灰黄褐色(10YR4/2)シルト。１～２㎜の明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。

SP-210
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。

SP-167　黒褐色（10YR3/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの小ブロックが混じる。しまりあり。

図144　４次調査Ⅵ区実測図（縮尺１/40）

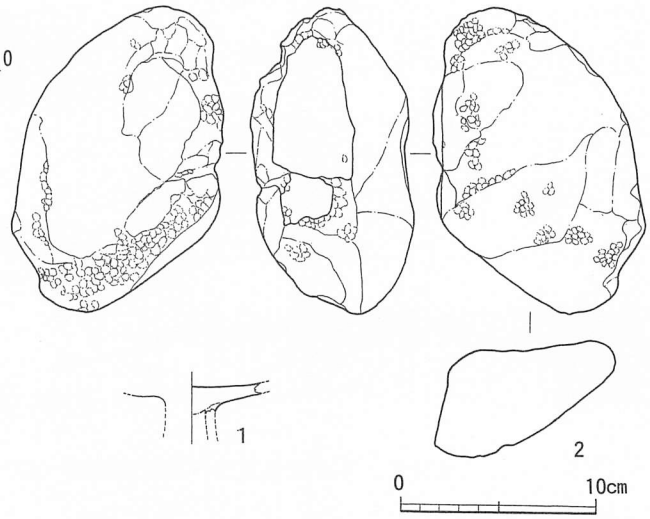
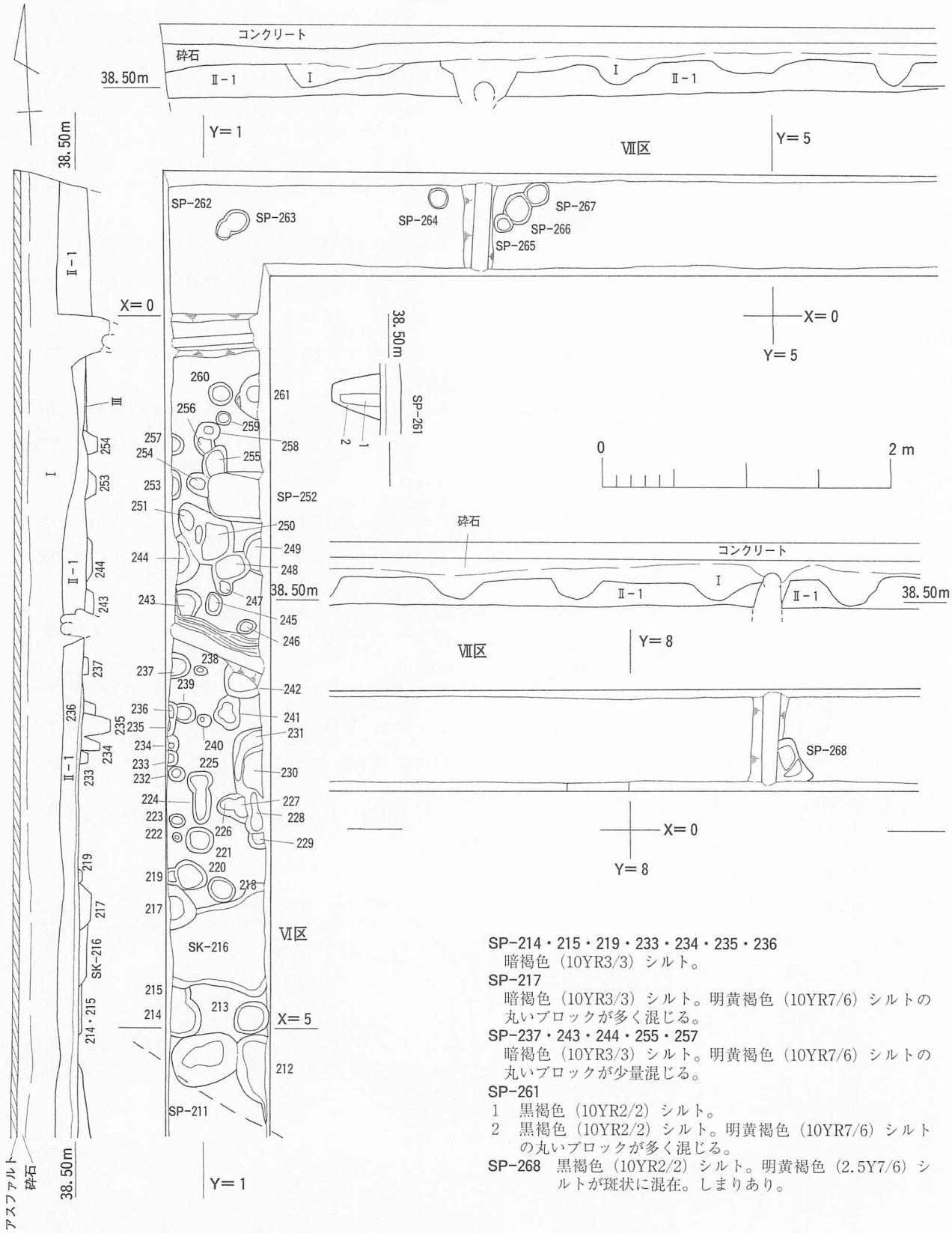
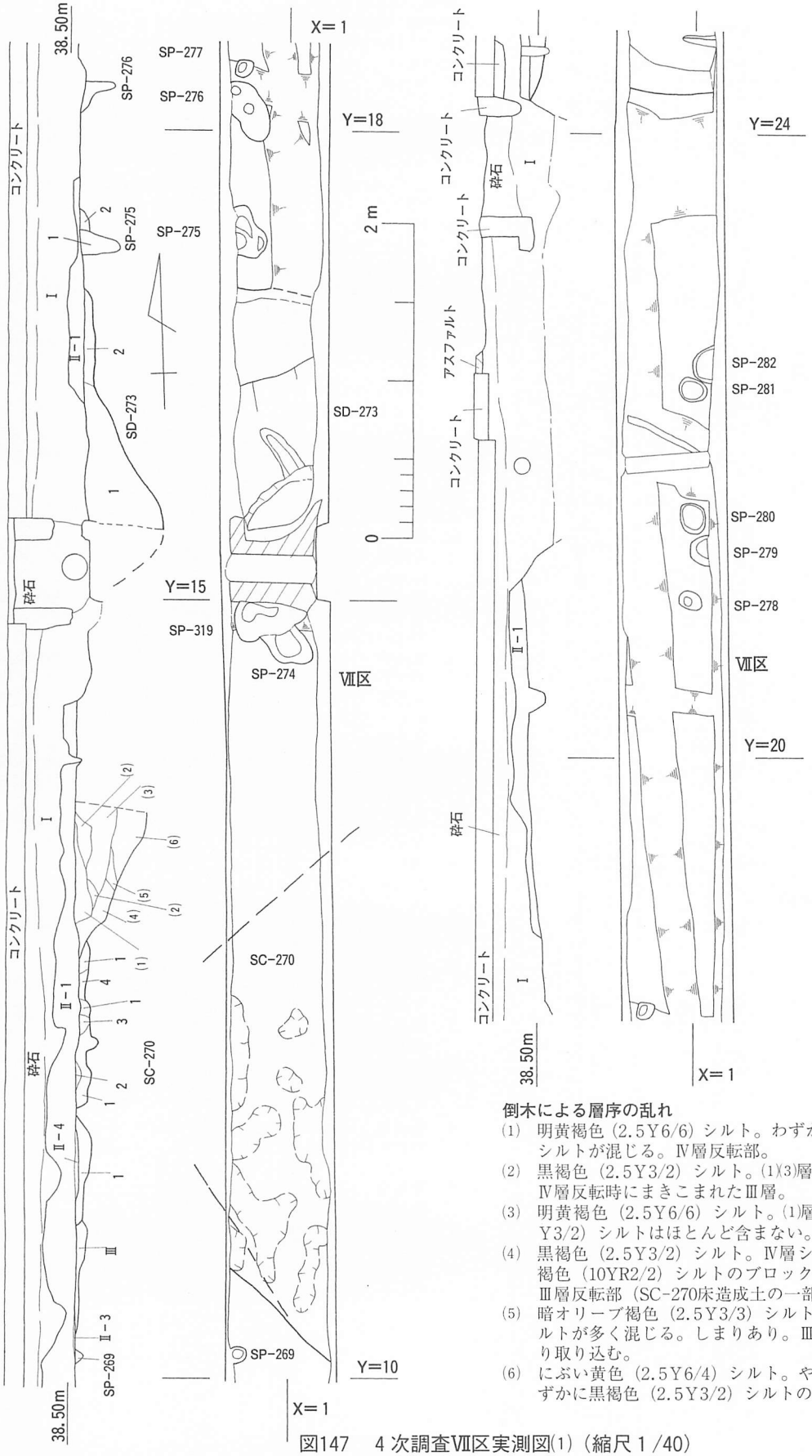


図145　４次調査Ⅵ区出土遺物実測図（縮尺１/４）



SP-214・215・219・233・234・235・236
暗褐色（10YR3/3）シルト。
SP-217
暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。
SP-237・243・244・255・257
暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが少量混じる。
SP-261
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR7/6）シルトの丸いブロックが多く混じる。
SP-268　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）シルトが斑状に混在。しまりあり。

図146　4次調査Ⅵ区・Ⅶ区実測図（縮尺1/40）（遺構名「SP-」一部省略）



倒木による層序の乱れ

(1)　明黄褐色（2.5Y6/6）シルト。わずかに黒褐色（10YR2/2）シルトが混じる。Ⅳ層反転部。

(2)　黒褐色（2.5Y3/2）シルト。(1)(3)層中に点在。粘性あり。Ⅳ層反転時にまきこまれたⅢ層。

(3)　明黄褐色（2.5Y6/6）シルト。(1)層に比べて黒褐色（2.5Y3/2）シルトはほとんど含まない。Ⅳ層反転部。

(4)　黒褐色（2.5Y3/2）シルト。Ⅳ層シルトの小ブロック、黒褐色（10YR2/2）シルトのブロックが混じる。粘性あり。Ⅲ層反転部（SC-270床造成土の一部か）。

(5)　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト。(4)層に比べ、Ⅳ層シルトが多く混じる。しまりあり。Ⅲ層反転部。Ⅳ層をかなり取り込む。

(6)　にぶい黄色（2.5Y6/4）シルト。やや汚れが見られる。わずかに黒褐色（2.5Y3/2）シルトの小ブロック混在。

図147　４次調査Ⅶ区実測図(1)（縮尺１/40）

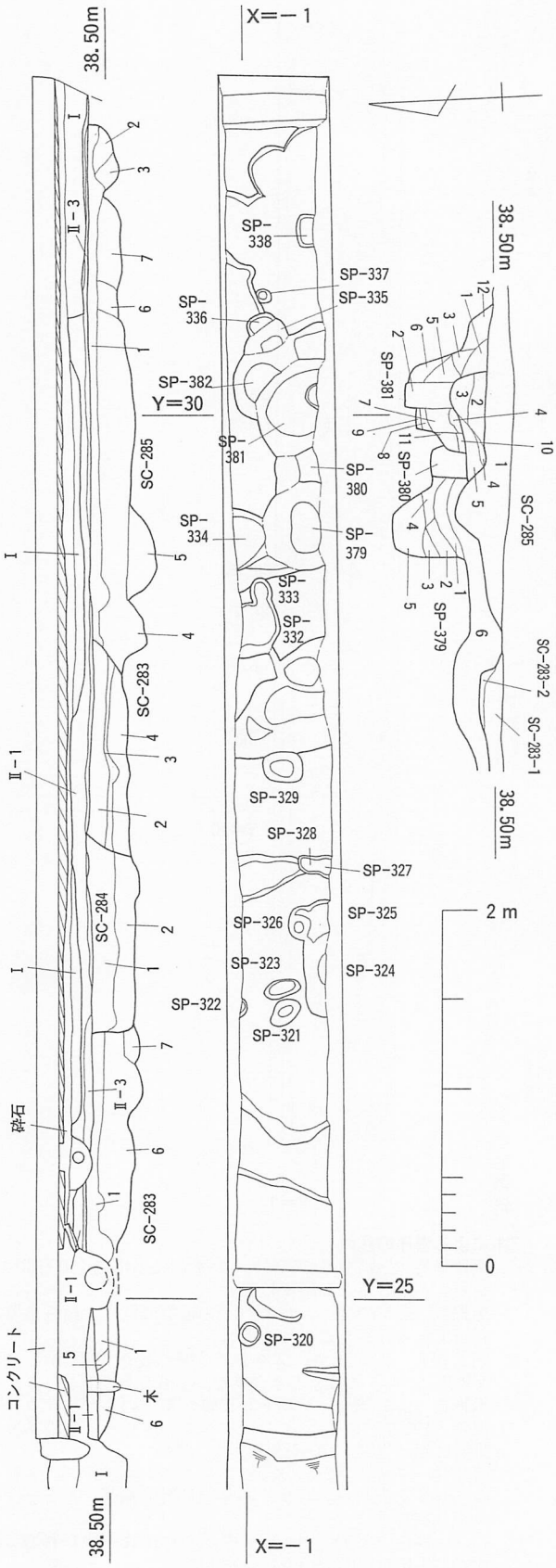


図147　土層注記

SP-269　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト。粘性あり。
Ⅱ-4　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト。

SC-270
1　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。砂礫、明黄褐色（10YR6/6）シルトの細片が多く混じる。しまりあり。床造成土。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。1層に比べ、やや粘性あり。
3　黄褐色（10YR5/6）シルト。黒褐色（10YR2/2）シルトがラミナ状に混じる。
4　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト。3層に比べ、黒褐色（10YR2/2）シルトの割合多い。

SP-275
1　黒褐色（10YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルトの細粒がわずかに混じる。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルトがブロック状に混在。しまり弱い。

SP-276　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルトの細粒が若干混じる。

SD-273
1　黒褐色（5YR3/1）シルト。しまり弱い。
2　黒褐色（7.5YR2/2）シルト。明黄褐色（10YR6/6）シルトの小ブロックが混じる。しまりあり。

図148　土層注記

北壁土層

SC-283
1　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土の丸いブロックが少量混じる。
2　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のブロックが少量混じる。SC-284埋土に比べてブロックの割合は多い。
3　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のブロックが上層ほど多く混じる。
4　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。
5　明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土。
6　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。粒状の焼土が多量に混じる。
7　暗褐色砂質土。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。

SC-284
1　暗褐色（10YR3/3）シルト。2～3㎝の明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のブロックが極少量混じる。
2　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土の丸いレンズ状ブロックが多く混じる。

SC-285
1　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土の丸いブロックが斑状に混じる。少量の焼土が混じる。
2　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土の丸いブロックが多く混じる。
3　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが暗褐色シルトより多く混じる。しまり強い。
4　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。ブロックは5㎜～5㎝と多様。しまり強い。焼土が少量混じる。
5　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土の1㎝程のブロックが混じる。
6　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロック、焼土が少量混じる。
7　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。

図148　4次調査Ⅶ区実測図(2)（縮尺1/40）

図148　土層注記

南壁土層

SC-283

1　暗褐色（10YR3/3）シルト。
2　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。しまりあり。

SC-285

1　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土の丸いブロックがまばらに混じる。
2　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土の丸いブロックが少量混じる。
3　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土の丸いブロックが多く混じる。
4　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のブロックが少量混じる。
5　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土の丸いブロックが混じる。
6　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。しまり強い。焼土が少量混じる。

SP-379

1　暗褐色（10YR3/3）シルト。
2　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが混じる。しまりあり。
3　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土のレンズ状ブロックが混じる。しまりあり。２層に比べてブロックの割合多い。
4　明黄褐色（2.5Y7/6）砂質土。暗褐色（10YR3/3）シルトが少量混じる。
5　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR3/3）砂質土の丸いブロックが少量混じる。ブロックの割合は比較的少ない。

SP-380　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR3/3）砂質土の丸いブロックが少量混じる。

SP-381

1　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR3/3）砂質土のレンズ状ブロックが混じる。
2　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR3/3）砂質土のブロックが多く混じる。
3　明黄褐色（10YR3/3）砂質土。
4　明黄褐色（10YR3/3）砂質土。少量の暗褐色（10YR３/3）シルトが混じる。
5　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR3/3）砂質土の２～３cmの丸いブロックが多く混じる。
6　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR3/3）砂質土のブロックが少量混じる。
7　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR3/3）砂質土の小さなレンズ状ブロックが多く混じる。
8　明黄褐色（10YR3/3）砂質土。暗褐色（10YR3/3）シルトが少量混じる。
9　暗褐色（10YR3/3）シルト。
10　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR3/3）砂質土のレンズ状ブロックが混じる。
11　明黄褐色（10YR3/3）砂質土。暗褐色（10YR3/3）シルトが少量混じる。
12　暗褐色（10YR3/3）シルト。明黄褐色（10YR3/3）砂質土のレンズ状ブロックが混じる。

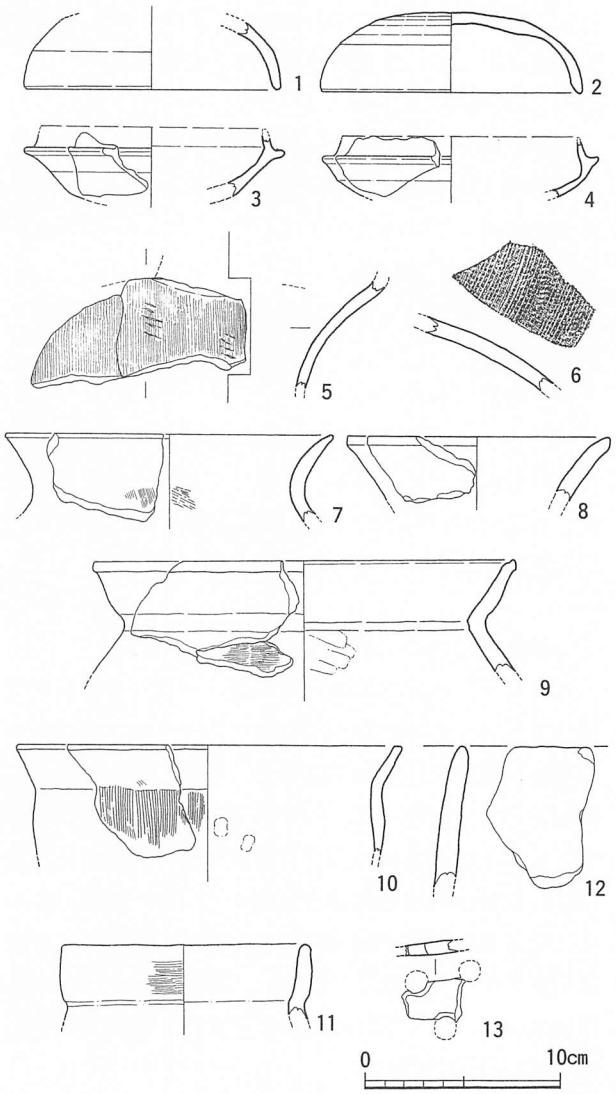


図149　４次調査Ⅶ区出土遺物実測図（縮尺１/４）

を検出した。南半分は、一辺４ｍを越える方形の竪穴式住居SC-204があり、北半には柱穴が密集する。あるいは、住居跡の床面が削平されているのかもしれない。なお、出土遺物は少ない（図145、図版44-２）。

①　**SC-204**（図144）

主軸を西北西－東南東にふる一辺４ｍを越える方形の竪穴式住居と考えられる。埋土の残りはよくないが、床面は標高38.40m前後に想定できる。主柱穴は調査区外に存在すると考えられる。SC-368に切られる。埋土出土遺物から２点が図化できた。１は土師器高坏。２は花崗岩製敲石。その他に土師器の甕片が出土しており、古墳時代中・後期の竪穴式住居と考えられる。

②　**SC-368**（図144）

SP-210・271が主柱穴を構成すると考えられる竪穴式住居である。SP-210は調査区西壁際で、SP-271は西壁土層断面で検出している。SC-204を切る。SP-210からは土師器甕片が１点出土し、古墳時代後期の

可能性が高い。

③ **SK-205**（図144）

SC-204南側を切る、幅約20cmの溝状土壙。埋土は黒褐色シルトで、深さ約15cm。出土遺物はない。

④ **SK-272**（図144）

調査区西壁で、Ⅱ層下・SC-204埋土上に、別単位の遺構埋土を確認し、SK-272とした。長さ約1m・厚さ約10cm。平面的広がりは不明。

⑤ **SK-216**（図146）

埋土は暗褐色シルト。幅50～80cmを測るが、平面プランは不明。

⑥ **柱穴・小穴**

南半分では調査区西壁に沿ってSC-204の埋土を切り込む柱穴群が見られる。北半分では大小の柱穴が密集し、SP-261のように柱痕が見られる柱穴もある。出土遺物がないことから時期は不明。

(7) **Ⅶ区**（図146～148、図版41）

Ⅶ区は1号棟北の約30mの区間。やはりⅡ層直下で遺構は検出されるが、西端ではアスファルト舗装面から50cm、東端では30cmの深さと、旧地形がかなり東に高かったことが窺える。西半は遺構がきわめてまばらで、柱穴が数基あるのみ。Ⅵ区から東に10m前後の地点は、住居跡の削平痕跡と判断した（SC-270）。この東に溝1条（SD-273）があり、再び遺構は柱穴が数基のみとまばらになる。ただし、Ⅶ区東端約7.5mは、竪穴式住居（SC-283～285）が重複し、遺物も出土した（図149、図版44-3）。

① **SC-270**（図147、図版41-2）

不規則な凹凸が見られ、その範囲の西側が直線的に画されることから、方形の竪穴式住居のほとんどが削平されてしまった痕跡と判断して、SC-270とした。規模などは不明。出土遺物もない。

② **SD-273**（図147、図版41-3）

SC-270の東、幅約1m・深さ約50cmの溝状の落ち込みである。埋土は1枚で、均質な黒褐色シルト。粘性が高く、しまりは弱い。遺物もほとんど含まず、流水の痕跡も認められないことから、2号棟南北のSD-1・41・286とも、1号棟南のSD-181とも異なる。

③ **SC-283・284・285**（図122・148、図版41-4）

SD-273の西側3mほどは柱穴が数基あるのみだが、それ以東の約7.5mの範囲は、竪穴式住居が複雑に重複する。平面で識別できなかったが、土層の観察では異なる3基の竪穴式住居（SC-283・284・285）の存在を確認した。あるいはこれ以上の重なりがあるのかもしれない。SC-283は一辺約4.7mの方形竪穴式住居。SC-284に切られる。床面は標高38.50m強。SC-284は検出幅わずか約1mで、竪穴式住居の隅部の検出と考えられる。床面は標高38.50m弱。SC-285は一辺3m以上の方形竪穴式住居。住居の西側をSC-283に切られ、不明な点が多い。床面は標高38.55m付近。SP-379・380（図版41-5）に主柱穴の可能性が考えられる。

遺物はSC-283・284・285で取り上げており、13点を図化した。1・2は須恵器の蓋、3・4は須恵器の坏。3は内傾する短い口縁をもち、口縁先端を欠損。4は底部から立ち上がりにかけての屈曲がやや強い。5は須恵器の横瓶。外面はタタキ後カキメ、内面に縦方向のナデが施される。6は須恵器の壺の肩部片で、外面はタタキ後に横方向のカキメ、内面には摩滅しているが青海波文の痕跡がわずかに残る。7～11は土師器甕。7・8は口縁部が緩やかに外反する。9は口縁部が内湾し、屈曲部外面に強い横ナデが施される。10は胴がわずかに張り、口縁部が外傾し、口縁端面はやや凹む。11は口縁が直立気味に立ち上がる。12・13は土師質の甑である。12はやや外傾する口縁部である。13は底部片で、径11mmの円孔が3孔確認できる。

9のように古相を示すものも含まれるが、出土遺物の大半は、6世紀後半～7世紀初頭に位置づけられる。切り合い関係から最新のSC-284は、当該期に埋没したと考えられる。

④ **柱穴・小穴他**

Ⅶ区では、柱穴はまばらにしか存在しない。SP-275とSP-276は埋土の特徴等に共通点が見られることから柵列の可能性も考えられる。出土遺物は、SP-268で土師器片が出土するのみで、時期については不明。なお、人工的な遺構ではないが、SC-270の東側に、倒木によると推定される層序の乱れがある（図147）。

(8) **小　結**

4次調査では、竪穴式住居や掘立柱建物などの、明らかな居住遺構を多数検出することができた。ほとんどが6世紀から7世紀初頭の遺構であり、先の3次調査で明らかになった溝の北西側に、古墳時代後期の集落が展開していたことになる。なお、10世紀代に下る遺構・遺物の出土もある。

iii　５次調査

５次調査は、４次調査区Ⅱ・Ⅲ区の西側に隣接する南北長約37m、幅0.7mの調査区である。調査が急を要した立会形式であったことと、先の調査の基準点設置個所に今回の調査区が設定されたことによって、正確な遺構の対応を期し難いことを、まず述べておかなくてはならない。

(1)　検出遺構（図150）

北側の４次調査Ⅲ区西側では、柱穴・小穴を数基検出したにとどまる。SP-６は柱間等の検討から、４次調査SP-127、５次調査SP-15とともに、掘立柱建物SB-361を構成すると考えられる。SP-９は４次調査SP-123と同一遺構。X＝22以南では、竪穴式住居跡SC-８を検出した。４次調査SC-131にあたる。調査区東壁に沿って焼土および白色粘土塊が見られたが、SC-８の中央部に位置することから、別遺構に伴う可能性が考えられる。

４次調査Ⅱ区の西側では、最北部の４次調査SC-61・SX-62に対応する遺構は、残存状況不良で、明確には検出できなかった。北側で北東－南西方向の掘方のラインを確認し、SC-14としたものの、４次調査SC-61・SX-62と一連の竪穴式住居と考えるには、形状が歪である。SC-14内で検出したSP-10は、４次調査SP-64と対応して竪穴式住居SC-365の主柱穴を構成すると考えられる。

X＝32あたりでは、４次調査SC-57・58にそれぞれ対応して、SC-16・17を検出した。ところが、この南の４次調査SC-55については、今回の調査で対応する遺構を確認できていない。４次調査SC-54についても、明らかに連続する遺構としては把握できず、該当する可能性のあるものとして、SC-19を識別した。ただし、その北にはSC-18を別に認識しており、４次調査でSC-54と一括した中に、別単位が存在した可能性もある。４次調査SC-53についても、SC-21が該当しそうだが、対応関係が判然としない。４次調査SC-51にいたっては、該当する遺構自体の存在が見あたらない。柱穴などは集中することから、遺構の上面が削平されている可能性がある。SP-24は４次調査SP-42とともに、竪穴式住居SC-367の主柱穴を構成すると考えられる。

(2)　出土遺物（図151、図版44-4・5）

５次調査出土遺物からは18点を図化できた。１～３はSP-６出土。１は須恵器の蓋で、外面の回転ヘラケズリが顕著。２は土師器の鉢。３は甑の口縁部片で、口縁部に向かってやや外傾する。胴部は接合痕が顕著で、指押さえによって接合痕を消した後、縦方向のハケメが施される。遺物の所見からSP-６は６世紀前葉以降に位置づけられる。

４・５はSC-14出土。４は磨石。敲打痕がわずかに残る。５は土師質の坏である。10世紀代。その他図化していないが、土師器甕片が見られる。SC-14に対応する４次調査SC-61・SX-62では、５～６世紀の土師器・須恵器があり、５はSC-14埋土を掘り込む別遺構に伴う可能性が高い。

６～９はSC-16・17出土である。６・７は須恵器の蓋である。６は焼成不良の蓋。８は須恵器横瓶の胴部片。外面にはカキメ調整、胴部内面は青海波文が施され、底部には指押さえが顕著に見られる。９は土師器甕の口縁部で、内外面に横ナデが施される。６世紀。その他図化していないが、古墳時代後期の土師器甕片、須恵器蓋坏が出土している。SC-16・17に対応する４次調査SC-57・58では、６世紀後半～７世紀初頭の遺物が出土しており、SC-16・17出土遺物に一致する。

10～17はSC-17・18・19出土。10は須恵器蓋の天井部で、外面に回転ヘラケズリ。11・12は須恵器坏で、ともに先端が欠損。６世紀後葉。13は壺の底部片で、底部外面にカキメ調整が施される。14～16は土師器甕の口縁部。14は口縁部が直線的に外傾し、口縁端部はやや凹む。15・16は口縁部が緩やかに内湾しながら直立気味に立ち上がる。17は薄い板状の結晶片岩の剝片。SC-17は６世紀末～７世紀前葉の４次調査SC-57に、SC-19は７世紀前葉の４次調査SC-54に対応しており、５次調査SC-17・18・19出土の６世紀中頃～後葉の須恵器・土師器は、流れ込みと考える。

SP-２からは、須恵器・土師器片に混じり、18の二次焼成を受けた鞴の羽口が出土している。残存長8.3㎝、外径7.3㎝、孔径2.2㎝を測る。胎土には１～３㎜前後の砂礫を多量に含む。内側はにぶい赤褐色、外面はにぶい黄褐色～にぶい黄橙色、被熱部分は赤褐色に変色している。羽口の外表面は劣化しておらず、被熱

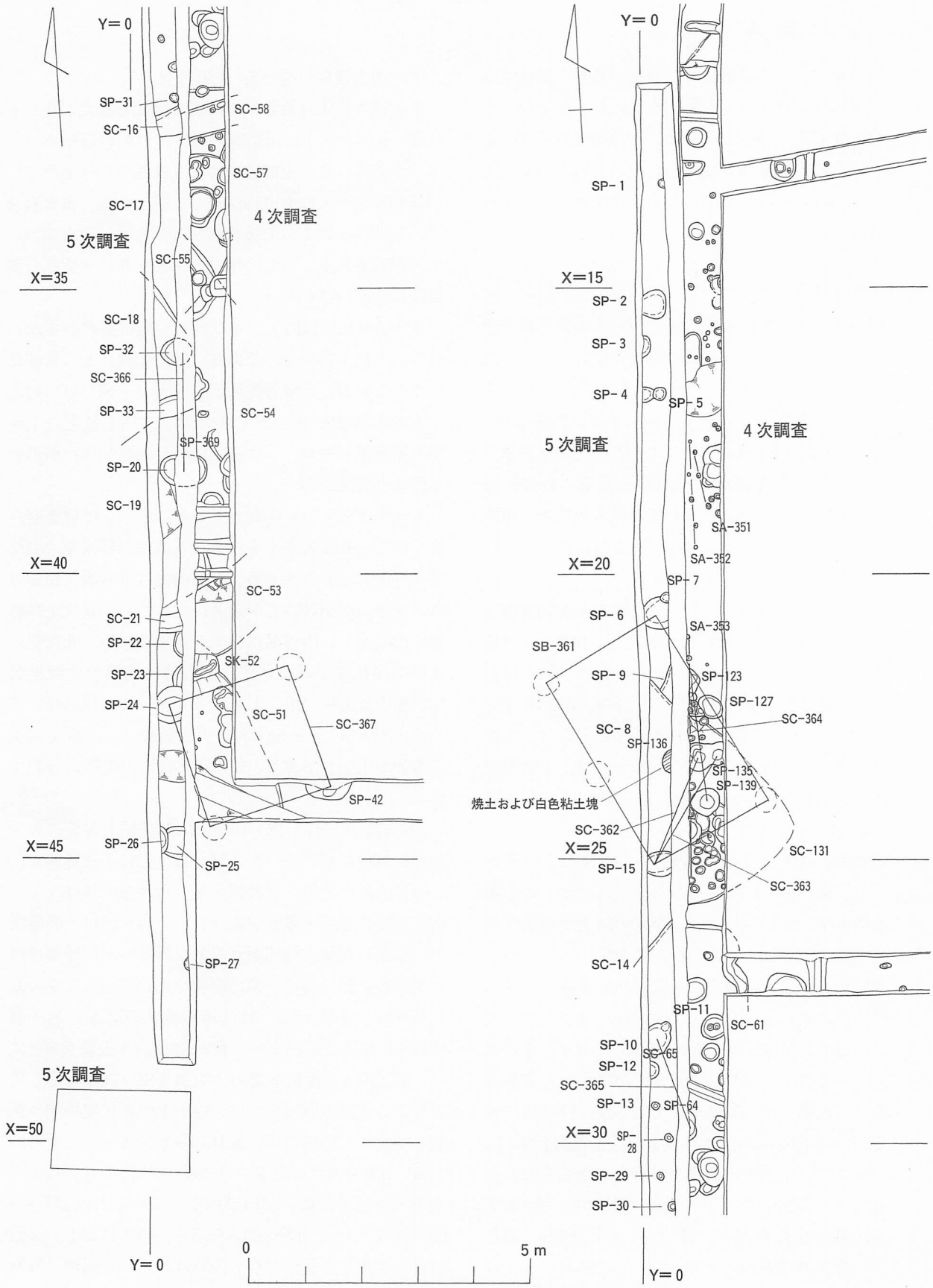


図150　4次調査・5次調査遺構配置図（縮尺1/100）

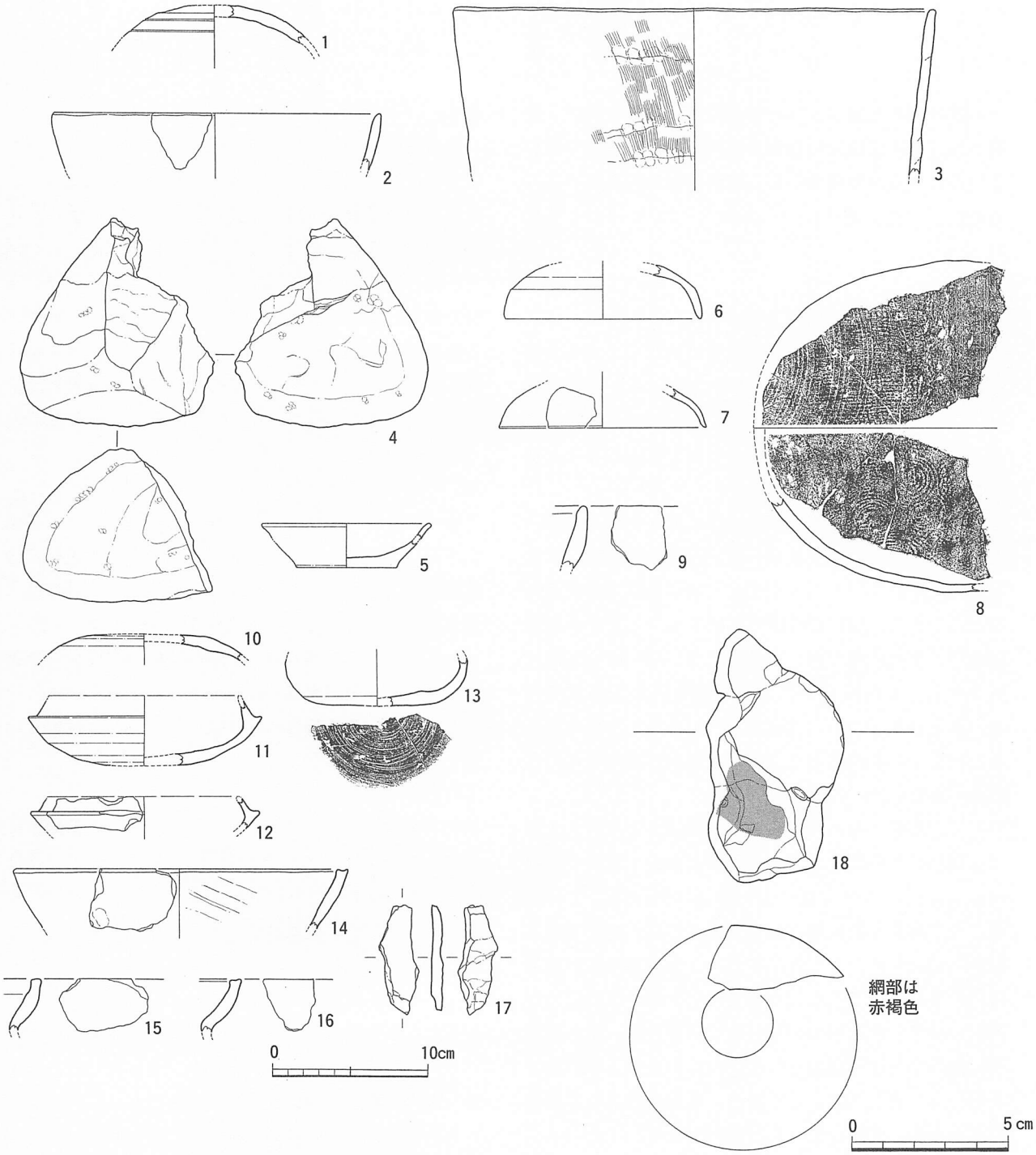


図151　５次調査出土遺物実測図（縮尺１/４、１/２）

部分が小範囲であることから、鍛冶炉外に取り付けられていた羽口の上半部にあたると考えられる[注2]。４次調査SC-55埋土中から鉄滓が出土していることから、６世紀末～７世紀前葉に調査区周辺に鍛冶炉が存在したと考えられる。

以上の他にSP-３、SP-10・11、SP-24から古墳時代後期の土師器片が少量出土している。

4 まとめ

桑原西稲葉遺跡３～５次調査では、古墳時代中・後期と古代の集落関係の遺構を確認できた。以下では、３次にわたる調査成果から、北吉井団地内における古墳時代、古代の集落について検討してまとめとしたい。

(1) 古墳時代中・後期の溝について

３次にわたる調査で、溝状遺構は少なくとも６条確認されている。そのうち３次調査SD-21（４次調査SD-１・41・286)、SD-22（３次調査SD-24)、SD-23の３条は、埋土に縞状の砂礫層の堆積が見られることから水路と考えられる。

出土遺物の検討から、SD-22は５世紀中頃～後葉、SD-23は６世紀中頃～後葉、SD-21は６世紀末～７世紀に使用されていたことが想定され、溝は同時併存しない。加えて、SD-22は溝内に段をもつことや土層断面から、２回の掘り直しが確認でき、SD-21も底面に段をもち、土層断面から２回の掘り直しが確認できる。以上の状況から、溝は埋没・掘り直しを繰り返しながら完全に埋没すると、新たな場所に掘削されたと考えられる。

さて、水路と考えられる３条の溝は、３次調査Ⅰ区で北側延長が確認できていないことから、北吉井団地内中央付近で大きく東に方向を転じていることになる。４次調査Ⅴ区東端や同Ⅶ区東端では、地山であるⅣ層上面のレベルが上昇しており、北東方向に旧地形は高くなっていたことになる。地形分類では低位段丘面から現世扇状地面との境付近に位置し[注3]、溝は低位段丘面の裾付近に掘削されていたものと考えられる。また、溝を灌漑目的とした場合、水田面は北吉井団地の東から南に展開していたと想定される。

(2) 古墳時代後期の集落について

３～５次調査では、竪穴式住居13棟前後・掘立柱建物２棟前後・土壙７基・柱穴多数を確認した。しかし、調査区は幅約75cm、４・５次調査が隣接する地点でも幅1.5m程であり、立柱痕が認められる柱穴が多数あるものの、竪穴式住居や掘立柱建物として復元できたものは一部にしかすぎない。こうした点を踏まえた上で、４次調査検出遺構を中心に、若干の検討を加える。

古墳時代後期の遺構は、４次調査Ⅶ区東端付近でも密集状況が窺えるが、４次調査Ⅱ・Ⅲ区が最も密度が高い。出土遺物や遺構の切り合い関係から竪穴式住居・掘立柱建物を整理すると、調査区内で最も早く営まれるのは、６世紀前葉～中頃に位置づけられるSC-51である。その後、６世紀後葉にSC-58・53・364が、６世紀末～７世紀初頭にSC-57・55が、７世紀前葉にSC-54が営まれる。団地北端のⅦ区では、６世紀後半以前にSC-283・285が、６世紀後半～７世紀初頭にSC-284が営まれる。その他にSC-61・131・204・270・365・368、SB-361（SC-362・363）があるが、出土遺物や切り合い関係から６世紀代であるものの、詳細な時期決定は難しい。ただ、住居の時間幅や遺構の密集度から、団地南西のⅡ・Ⅲ区では、２～３棟の竪穴式住居が同時併存していた状況が想定される。

ところで、５次調査SP-２からは鞴の羽口片が出土しており、４次調査SC-55埋土中に、１点ながら鉄滓が出土している。鞴の羽口が出土したSP-２付近は、竪穴式住居が見られず、遺構の密集度がやや低く、周辺で鍛冶の行われていた可能性が高い。SC-55は６世紀末～７世紀初頭に営まれていることから、鍛冶炉も前後する時期に存在したと考えられる。ただし、後世の削平を受けているとは言え、鉄滓の量は少なく、規模は大きくない。古墳時代後期には、一般的な集落で村方鍛冶が定着し始めており、北吉井団地内の６世紀末～７世紀初頭前後の集落でも、やはり同様な状況にあったことを示していると言えよう。

(3) 古代の集落について

４次調査ではSP-310、SC-54～58埋土中から、５次調査ではSC-14（４次調査SC-61・SX-62に対応）の埋土中から10世紀の土師器坏が各１点出土している。10世紀の遺物は、上記の３点のみであるが、出土場所は全て４次調査Ⅱ区北側に集中する。４次調査SP-310では、確実に柱穴内から出土しており、周辺に掘立柱建物等が存在していた可能性が考えられる。

また、４次調査Ⅲ区では、杭を打ち込んだ程度の簡易な柵列を３列（SA-351・352・353）確認している。柱穴内からの出土遺物はないが、SA-353はSC-131の

埋土を掘り込み、古墳時代後期以降に位置づけられる。各々の柵列の方向は同一でないものの、柱間隔は約50cmで、埋土は黒褐色シルト主体と共通することから、柵列群は近接した時期のものと考えられる。４次調査SP-310の埋土は、黒褐色シルトで、古墳時代の遺構埋土と比べて砂礫を含まず、粘性が強く、この特徴は柵列を構成する柱穴と共通する。３～５次調査では、７世紀以降の遺物は10世紀に限られており、柵列群が10世紀代のものである可能性が高い。

北吉井団地周辺では、団地北西に位置する桑原西稲葉遺跡１次調査で８世紀代の溝が、樽味四反地遺跡で10世紀代の溝が確認されているのみで[注4]、今回の調査は団地周辺の古代末の集落を知る上での貴重な資料と言える。

[注]

1　村上恭通専門員に御教示頂いた。

2　村上恭通専門員に御教示頂いた。

3　鹿島愛彦・高橋治郎 1980：四国松山平野の環境地質学的研究(1)、松山平野とその周辺の地質. 愛媛大学教養部紀要、自然科学. 9-1

4　梅木謙一 1992：桑原地区の遺跡・松山市文化財調査報告書 26

SP一覧

３次調査

Ⅰ区：10基（SP-１・３～11）

Ⅱ区：３基（SP-25～27）

欠番：SP-２・12～20

４次調査

Ⅰ区：49基（SP-２～40・42～50・301）

Ⅱ区：45基（SP-56・60・63～75・303～310・339～350・369～378）

Ⅲ区：82基（SP-83～102・104～125・127～130・132・133・135・137～162・312～318）

Ⅳ区：７基（SP-76～82）

Ⅴ区：34基（SP-168～180・182～188・190～203）

Ⅵ区：63基（SP-163～167・206～215・217～263・271）

Ⅶ区：35基（SP-264～269・274～282・319～329・334～338・379～382）

欠番：SP-126・134・136・286～300・302・311・330～333・354～360

５次調査（調査区割は４次調査を準用）

Ⅱ区：16基（SP-10～13・15・20・22～31）

Ⅲ区：８基（SP-１～７・９）

表5　桑原西稲葉遺跡3～5次調査出土遺物観察表

図124　3次調査Ⅰ区出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SP1		3・Ⅰ	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石・赤色粒少量含む。	1001
2	SP9		3・Ⅰ	須恵器	坏身	受部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。0.5㎜以下の砂粒少量含む。	1005
3	SP1		3・Ⅰ	須恵器	高坏	脚部	長脚2段・透かし3方向。外面回転ナデ、内面ヘラケズリ・ナデ。内外面灰白色。	1002
4	SP4		3・Ⅰ	須恵器	甕	胴部	外面縄蓆文タタキ、内面青海波文。内外面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1003
5	SP6		3・Ⅰ	土師器	高坏	脚部	外面横ナデ。内外面橙色。1㎜以下の長石少量含む。	1004
6	―	Ⅲ層	3・Ⅰ	土師器	甕	口縁	外面横ナデ、内面横ハケメ後ナデ消し。内外面にぶい橙色。1～3㎜の長石・石英多く含む。	1006

図127・128　3次調査SD-21出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1017
2	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。0.5～1㎜の長石・石英少量含む。	1007
3	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。	1012
4	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ。外面灰黄色、内面灰白色。1～2㎜の砂粒少量含む。	1079
5	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	全形	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。外面紫灰色、内面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。	1008
6	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	受部	外面灰黄色、内面灰白色。0.5～1㎜の長石少量含む。	1016
7	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	口縁	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1020
8	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。0.5～2㎜の長石少量含む。	1077
9	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰色。1～3㎜の長石少量含む。	1078
10	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	高坏	坏底部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1～3㎜の長石・石英含む。	1011
11	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	高坏	脚部	内外面回転ナデ。内外面灰色。0.5～1㎜の長石少量含む。	1009
12	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	鉢	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。	1013
13	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	壺	胴部	外面カキメ、内面回転ナデ。内外面灰色。1～2㎜の長石少量含む。	1019
14	SD21	中層	3・Ⅱ	須恵器	鉢	底部	外面ナデ・カキメ、内面指押さえ後ナデ。内外面黄橙色。1～5㎜の長石・赤色粒少量含む。生焼け。	1010
15	SD21	中層	3・Ⅱ	土師器	坏	底部	外面磨滅、内面ナデ。外面浅黄橙色、内面橙色。1～2㎜の長石少量含む。軟質。	1080
16	SD21	中層	3・Ⅱ	土師器	高坏	脚裾部	内外面ナデ。内外面橙色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1014
17	SD21	中層	3・Ⅱ	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。外面にぶい橙色、内面橙色。1～2㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1015
18	SD21	中層	3・Ⅱ	土師器	甕	肩部	外面横ハケメ、内面ハケメ。外面橙色、内面にぶい赤褐色。1～2㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1018
19	SD21	中層西半		須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。	1049
20	SD21	中層西半		須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。0.5～1㎜の長石少量含む。	1048
21	SD21	中層西半		須恵器	坏身	口縁	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。0.5～1㎜の長石少量含む。	1052
22	SD21	中層西半		須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰白色、内面灰色。0.5～1㎜の長石少量含む。	1050
23	SD21	中層西半		土師器	坏	口縁	内面ナデ。内外面橙色。精製土に0.5㎜以下の長石少量含む。	1051
24	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石・黒色粒少量含む。	1028
25	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	口縁	内外面淡黄色。1～3㎜の長石・石英少量含む。	1026
26	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面ナデ。内外面灰白色。1～3㎜の長石・雲母少量含む。	1021
27	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1082
28	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰色、内面黄灰色。1～2㎜の長石少量含む。	1022
29	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1023
30	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	高坏	口縁	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。1～2㎜の砂粒少量含む。	1030
31	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	高坏	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1027
32	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	高坏	脚部	長脚2段。内外面回転ナデ。内外面灰白色。0.5～2㎜の長石・黒色粒少量含む。	1029
33	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	高坏	脚部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1034
34	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	壺	口縁	外面擦過、内面ナデ。外面黄灰色、内面灰白色。1㎜弱の長石・黒色粒少量含む。	1081
35	SD21	下層	3・Ⅱ	須恵器	横瓶	胴部	外面縄蓆文タタキ後カキメ、内面青海波文。外面灰色、内面灰白色。1～2㎜の長石・赤色粒少量含む。	1031
36	SD21	下層	3・Ⅱ	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。内外面にぶい橙色。1～3㎜長石・石英・黒色粒少量含む。	1024
37	SD21	下層	3・Ⅱ	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。外面橙色、内面にぶい橙色。1～3㎜の長石・石英多く含む。やや軟質。	1033
38	SD21	溝底砂質土		須恵器	高坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1～3㎜の長石・石英少量含む。	1042
39	SD21	溝底砂質土		須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石・黒色粒少量含む。	1045
40	SD21	溝底砂質土		須恵器	坏身	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1㎜以下の長石・雲母少量含む。	1046
41	SD21	溝底砂質土		須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。0.5～1㎜の長石・黒色粒少量含む。やや軟質。	1040
42	SD21	溝底砂質土		須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～3㎜の長石・石英少量含む。	1041
43	SD21	溝底砂質土		須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。外面淡黄色、内面灰白色。0.5～1㎜の長石・石英少量含む。やや軟質。	1044
44	SD21	溝底砂質土		須恵器	高坏	脚部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～3㎜の長石少量含む。	1047
45	SD21	溝底砂質土		土師器	坏	完形	内面ナデ。内外面橙色。1～2㎜の長石・石英含む。やや軟質。	1043
46	SD21	11層	3・Ⅱ	須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。	1037
47	SD21	11層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰白色、内面灰色。0.5～1㎜の長石少量含む。	1036
48	SD21	11層	3・Ⅱ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。0.5～1㎜の長石含む。	1035

49	SD21	11層	3・Ⅱ	土師器	鉢	口縁	外面縦ハケメ・ナデ、内面ナデ。外面にぶい橙色、内面橙色。１～３㎜の長石・石英・赤色粒・雲母含む。	1039
50	SD21	11層	3・Ⅱ	石器	砥石		砂岩。	1038

図129　３次調査SD-22出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SD22	上層	3・Ⅱ	土師器	高坏	口縁	外面ナデ、内面横ハケメ後ナデ。内外面浅黄橙色。１～２㎜の長石・石英・雲母含む。	1085
2	SD22	上層	3・Ⅱ	土師器	高坏	口縁	内外面ナデ。内外面橙色。0.5～１㎜の長石・石英少量含む。	1053
3	SD22	上層	3・Ⅱ	土師器	高坏	脚部	外面ミガキ・ナデ。内外面橙色。１～２㎜の長石・石英含む。	1086
4	SD22	上層	3・Ⅱ	土師器	甕	肩部	内外面浅黄橙色。１～２㎜の長石・石英・雲母含む。	1087
5	SD22	中層	3・Ⅱ	土師器	高坏	口縁	外面ミガキ後ナデ、内面ナデ。内外面にぶい橙色。１～２㎜の長石・石英少量含む。	1054
6	SD22	中層	3・Ⅱ	土師器	壺	肩部	内外面ナデ。外面浅黄橙色、内面灰白色。１～３㎜の長石・石英少量含む。	1088
7	SD22	下層	3・Ⅱ	土師器	高坏	口縁	外面ナデ・指押さえ、内面ナデ。外面にぶい橙色、内面橙色。0.5～１㎜の長石少量含む。	1059
8	SD22	下層	3・Ⅱ	土師器	高坏	坏部	外面橙色、内面黄橙色。１～２㎜の長石少量含む。やや軟質。	1056
9	SD22	下層	3・Ⅱ	土師器	高坏	口縁	内外面ナデ。外面にぶい橙色、内面橙色。0.5～１㎜の長石含む。	1055
10	SD22	下層	3・Ⅱ	土師器	高坏	坏部	内外面ナデ。内外面橙色。１～２㎜の長石・石英少量含む。	1057
11	SD22	下層	3・Ⅱ	土師器	高坏	脚部	内外面ナデ。外面橙色、内面浅黄橙色。１～２㎜の長石・石英少量含む。	1058
12	SD22	下層	3・Ⅱ	土師器	壺	胴部	内外面ナデ。内外面橙色。0.5～１㎜の長石・石英・赤色粒含む。	1089
13	SD22	下層	3・Ⅱ	土師器	甕	頸部	内外面ナデ。内外面橙色。0.5～１㎜の長石含む。	1090
14	SD22	下層	3・Ⅱ	土師器	鉢	底部	外面タタキ後ナデ消し、内面ナデ。内外面浅黄橙色。１～２㎜の長石・石英少量含む。	1091
15	SD22	南壁清掃中		土師器	壺	胴部	外面ナデ、内面指押さえ。外面黄灰色、内面にぶい黄橙色。１～３㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1060
16	SD22	上層	3・Ⅱ	鉄器	釘？	－	断面方形。先端欠損。	1095

図130　３次調査SD-23出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SD23	12層		須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。外面灰色、内面褐灰色。0.5～１㎜の長石・石英少量含む。	1069
2	SD23	中層～下層		須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面淡黄色。１～２㎜の長石少量含む。	1092
3	SD23	溝底砂層		須恵器	坏蓋	体部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰色、内面青灰色。１～２㎜の長石少量含む。	1067
4	SD23	３層		須恵器	坏蓋	口縁	内外面ナデ。内外面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。	1097
5	SD23	南壁暗茶褐色土		土師器	高坏	脚部	内外面ナデ。外面橙色、内面明赤褐色。0.5～１㎜の長石少量含む。	1065
6	SD23	南壁暗茶褐色土		土師器	高坏	脚部	外面縦の板ナデ、内面指押さえ・ナデ。内外面橙色。１～２㎜の長石・石英少量含む。	1066
7	SD23	溝底砂層上部		土師器	高坏	脚部	外面ナデ、内面ケズリ。外面橙色、内面にぶい黄褐色。１～３㎜の長石・石英少量含む。	1068
8	SD23	上層		土師器	鉢	口縁	内外面ナデ。外面橙色、内面明褐色。精製土に0.5㎜以下の長石少量含む。	1061
9	SD23	溝下半部		土師器	甕	口縁	外面ナデ・横ハケメ、内面ナデ。外面明赤褐色、内面にぶい赤褐色。0.５～３㎜の長石・石英含む。やや軟質。	1070
10	SD23	溝下半部		土師器	甕	口縁	内外面横ナデ。外面橙色、内面にぶい橙色。１～２㎜の長石・石英含む。	1064
11	SD23	中層～下層		土師器	甕	口縁	内面ナデ。内外面橙色。１～２㎜の長石・石英・雲母多く含む。	1063
12	SD23	中層～下層		土師器	鍋	胴部	外面指押さえ、内面粗いハケメ。内外面橙色。0.5～３㎜の長石・石英・雲母多く含む。	1062
13	SD23	上層		石器	台石		被熱。砂岩。	1096

図131　３次調査Ⅱ区Ⅲ層出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	－	Ⅲ層	3・Ⅱ東	須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。外面灰白色、内面灰黄色。0.5～１㎜の長石少量含む。	1093
2	－	Ⅲ層	3・Ⅱ西	須恵器	高坏	脚裾部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面暗灰黄色。0.5㎜以下の砂粒少量含む。	1076
3	－	Ⅲ層	3・Ⅱ東	土師器	高坏	口縁	外面ナデ、内面磨滅。外面にぶい橙色、内面橙色。１㎜以下の長石・赤色粒少量含む。	1074
4	－	Ⅲ層	3・Ⅱ東	土師器	高坏	坏部	内外面ナデ。内外面浅黄橙色。１～２㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1075
5	－	Ⅲ層	3・Ⅱ東	土師器	高坏	坏部	外面橙色、内面にぶい橙色。１㎜以下の長石・赤色粒少量含む。	1072
6	－	Ⅲ層	3・Ⅱ東	土師器	高坏	脚部	外面ナデ、内面ケズリ後横ナデ。外面橙色、内面にぶい橙色。0.5㎜以下の長石・石英少量含む。	1073
7	－	Ⅲ層	3・Ⅱ東	土師器	甕	口縁	内外面磨滅。外面にぶい赤褐色、内面橙色。１～２㎜の長石・石英含む。	1094

図134　４次調査Ⅰ区出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SD1		4・Ⅰ	須恵器	坏蓋	全形	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰色。１～２㎜の長石・石英少量含む。	1002
2	SD41	上層	4・Ⅰ	須恵器	蓋	口縁	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。	1003
3	SD41	上層	4・Ⅰ	須恵器	壺	口縁	外面波状文。内外面回転ナデ。外面灰色、内面黄灰色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1004
4	SD41	上層	4・Ⅰ	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。外面灰黄褐色、内面にぶい黄橙色。２～４㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1005
5	SD41	下層	4・Ⅰ	須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。外面灰黄色、内面灰白色。１～２㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1011
6	SD41	下層	4・Ⅰ	須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰色、内面青灰色。１㎜以下の長石少量含む。	1006
7	SD41	下層	4・Ⅰ	須恵器	坏身	全形	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。	1010
8	SD41	下層	4・Ⅰ	須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。１㎜以下の長石・雲母少量含む。	1007
9	SD41	下層	4・Ⅰ	須恵器	坏身	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰色。0.5～１㎜以下の長石多く含む。	1008
10	SD41	下層	4・Ⅰ	須恵器	高坏	脚裾部	内外面回転ナデ。内外面灰褐色。１～２㎜の長石含む。	1012
11	SD41	下層	4・Ⅰ	須恵器	瑕	胴部	内外面回転ナデ。外面青灰色、内面灰色。１㎜以下の長石少量含む。	1009

12	SD41	下層	4・Ⅰ	須恵器	壺	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1013
13	SD41	下層	4・Ⅰ	土師器	甕	口縁	外面にぶい橙色、内面にぶい赤褐色。1～2㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1014
14	SD41	下層	4・Ⅰ	土師器	甕	肩部	外面横ハケメ、内面横ハケメ・ナデ。外面にぶい橙色、内面にぶい黄橙色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1015
15	SC51		4・Ⅰ	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1017
16	SC51		4・Ⅰ	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面ナデ。内外面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1016
17	SC51		4・Ⅰ	須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰色。1㎜の長石・石英少量含む。	1078
18	SC51		4・Ⅰ	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。内外面にぶい黄橙色。1～3㎜の長石・石英多く含む。	1018
19	SP15		4・Ⅰ	須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面青灰色。1㎜以下の長石少量含む。	1064

図137　4次調査Ⅱ区出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SC54		4・Ⅱ	須恵器	坏蓋	全形	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰色。1～3㎜の長石少量含む。	1026
2	SC54		4・Ⅱ	須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。内外面青灰色。1㎜以下の長石少量含む。	1024
3	SC54		4・Ⅱ	須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰色。1㎜の長石少量含む。	1025
4	SC54		4・Ⅱ	須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。外面青灰色、内面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1019
5	SC54		4・Ⅱ	須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1020
6	SC54		4・Ⅱ	須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。内外面赤褐色。1㎜以下の長石少量含む。	1031
7	SC54		4・Ⅱ	須恵器	坏身	体部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1028
8	SC54		4・Ⅱ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面青灰色、内面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。	1029
9	SC54		4・Ⅱ	須恵器	鉢	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～4㎜の長石・石英少量含む。	1021
10	SC54		4・Ⅱ	須恵器	短頸壺	上半部	内外面回転ナデ。外面赤灰色、内面青灰色。1～2㎜の長石少量含む。	1027
11	SC54		4・Ⅱ	土師器	高坏	脚部	外面指押さえ、内面ナデ。外面橙色、内面にぶい橙色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1022
12	SC54		4・Ⅱ	土師器	鉢	口縁	内外面ナデ。外面にぶい赤褐色、内面橙色。1㎜以下の長石少量含む。	1030
13	SC54		4・Ⅱ	土師器	甕	口縁	内外面にぶい黄橙色。1～3㎜の長石・石英多く含む。	1033
14	SC54		4・Ⅱ	石器	砥石		砂岩。	1023
15	SC54		4・Ⅱ	鉄滓			重量9.4ｇ。	1032
16	SC57		4・Ⅱ	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ。外面灰白色、内面灰色。1～2㎜の長石少量含む。	1038
17	SP56	R1	4・Ⅱ	須恵器	坏身	完形	底部にヘラ記号。外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。	1001
	SC57	R2	4・Ⅱ					
18	SC54～58		4・Ⅱ	須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1～2㎜の長石・石英少量含む。	1035
19	SC54～58		4・Ⅱ	須恵器	坏身	体部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1034
20	SC54～58		4・Ⅱ	土師器	坏	底部	内面ナデ。外面灰白色、内面浅黄色。1㎜以下の長石少量含む。	1036
21	SX62		4・Ⅱ	須恵器	甕	胴部	外面カキメ、内面青海波文。外面灰黄色、内面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1039
22	SP66		4・Ⅱ	土師器	甕	口縁	内外面横ナデ。外面浅黄橙色、内面にぶい黄橙色。1㎜以下の長石少量含む。	1065
23	SP310		4・Ⅱ	土師器	坏	底部	内外面ナデ。外面灰色、内面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。	1037

図140　4次調査Ⅲ区出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SP123		4・Ⅲ	須恵器	高坏	脚裾部	内外面回転ナデ。外面黄灰色、内面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1066
2	SP123		4・Ⅲ	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。外面にぶい赤褐色、内面にぶい褐色。1～2㎜の長石多く含む。	1067
3	SP129		4・Ⅲ	須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面青灰色。1㎜以下の長石少量含む。	1070
4	SP129		4・Ⅲ	須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1069
5	SP129		4・Ⅲ	須恵器	高坏	脚部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面青灰色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1068
6	SP129		4・Ⅲ	土師器	鉢	口縁	内外面ナデ。外面にぶい赤褐色、内面灰褐色。1～2㎜の長石多く含む。	1071
7	SP136		4・Ⅲ	須恵器	甕	胴部	外面タタキ、内面青海波文。内外面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1072
8	SP146		4・Ⅲ	須恵器	坏蓋	天井部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1073
9	SP146		4・Ⅲ	須恵器	坏身	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1074

図141　4次調査Ⅳ区出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SD286		4・Ⅳ	須恵器	坏蓋	全形	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰色。1㎜以下の長石少量含む。	1057
2	SD286		4・Ⅳ	須恵器	坏蓋	全形	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰色。1～2㎜の長石少量含む。	1056
3	SD286		4・Ⅳ	須恵器	坏蓋	全形	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。外面紫灰色、内面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1055
4	SD286		4・Ⅳ	須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1059
5	SD286		4・Ⅳ	須恵器	坏蓋	口縁	内外面ナデ。内外面灰黄色。1～2㎜の長石少量含む。	1060
6	SD286		4・Ⅳ	須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰色。1～2㎜の長石少量含む。	1054
7	SD286		4・Ⅳ	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ、内底面定方向ナデ。内外面灰色。1～2㎜の長石少量含む。	1053
8	SD286		4・Ⅳ	土師器	壺か甕	底部	内外面磨滅。内外面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。軟質。	1058
9	SD286		4・Ⅳ	土師器	高坏	坏底部	内外面磨滅。内外面橙色。1～2㎜の長石少量含む。やや軟質。	1062
10	SD286		4・Ⅳ	土師器	壺	頸部	外面ハケメ、内面ケズリ。外面にぶい黄橙色、内面褐灰色。1～3㎜の長石・石英多く含む。	1061

11	SD286	4・Ⅳ	石器	台石		砂岩。	1063

図143　４次調査Ⅴ区出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SP188		4・Ⅴ	須恵器	坏身	底部	内外面灰白色。１～３㎜の長石少量含む。	1075

図145　４次調査Ⅵ区出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SC204		4・Ⅵ	土師器	高坏	坏底部	内面ナデ。外面にぶい黄橙色、内面橙色。１～２㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1076
2	SC204		4・Ⅵ	石器	敲石		花崗岩。	1077

図149　４次調査Ⅶ区出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SC283・284・285			須恵器	坏蓋	口縁	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。１㎜以下の長石多く含む。	1040
2	SC283・284・285			須恵器	坏蓋	全形	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。１～２㎜の長石少量含む。	1044
3	SC283・284・285			須恵器	坏身	受部	内外面回転ナデ。外面黄灰色、内面にぶい黄橙色。１～２㎜の長石・石英少量含む。	1042
4	SC283・284・285			須恵器	坏身	受部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。	1045
5	SC283・284・285			須恵器	横瓶	肩部	外面タタキ後ハケメ。内外面灰色。１～３㎜の長石少量含む。	1043
6	SC283・284・285			須恵器	壺	肩部	内外面ナデ。外面灰色、内面灰白色。１㎜以下の長石多く含む。	1041
7	SC283・284・285			土師器	甕	口縁	外面縦ハケメ・横ナデ、内面横ハケメ。１㎜以下の長石・雲母少量含む。	1049
8	SC283・284・285			土師器	甕	口縁	内外面ナデ。外面にぶい褐色、内面浅黄橙色。１～２㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1051
9	SC283・284・285			土師器	甕	口縁	外面横ハケメ・横ナデ、内面横ナデ。内外面にぶい褐色。１～２㎜の長石・石英・雲母多く含む。	1048
10	SC283・284・285			土師器	甕	口縁	外面縦ハケメ・ナデ、内面ナデ・指押さえ。外面にぶい褐色、内面橙色。１～２㎜の長石・石英少量含む。	1047
11	SC283・284・285			土師器	甕	口縁	外面にぶい橙色、内面灰褐色。１㎜以下の長石少量含む。	1050
12	SC283・284・285			土師器	甑	口縁	内面ナデ。外面淡黄色、内面橙色。１～２㎜の長石少量含む。	1046
13	SC283・284・285			土師器	甑	底部	内外面ナデ。外面にぶい黄橙色、内面にぶい橙色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1052

図151　５次調査出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SP6		5・Ⅲ	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。内外面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。	1015
2	SP6		5・Ⅲ	土師器	鉢	口縁	内外面橙色。１㎜以下の長石・石英含む。	1016
3	SP6		5・Ⅲ	土師器	甑	口縁	外面縦ハケメ、内面ナデ。内外面橙色。１～２㎜の長石・雲母少量含む。	1017
4	SC14		5・Ⅱ	石器	磨石		砂岩。	1002
5	SC14		5・Ⅱ	土師器	坏	全形	内面ナデ。内外面浅黄橙色。１㎜以下の長石少量含む。	1001
6	SC16・17		5・Ⅱ	須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰黄色。１～３㎜の長石少量含む。	1004
7	SC16・17		5・Ⅱ	須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。１～３㎜の長石少量含む。	1003
8	SC16・17		5・Ⅱ	須恵器	横瓶	胴部	外面カキメ、内面青海波文後ナデ。外面にぶい赤褐色、内面灰色。	1006
9	SC16・17		5・Ⅱ	土師器	甕	口縁	内外面横ナデ。内外面にぶい橙色。１～２㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1005
10	SC17・18・19		5・Ⅱ	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。外面灰黄色、内面灰白色。１～２㎜の長石少量含む。	1009
11	SC17・18・19		5・Ⅱ	須恵器	坏身	受部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。内外面青灰色。１～２㎜の長石少量含む。	1007
12	SC17・18・19		5・Ⅱ	須恵器	坏身	口縁	内外面回転ナデ。外面灰白色、内面灰色。１～２㎜の長石少量含む。	1008
13	SC17・18・19		5・Ⅱ	須恵器	壺	底部	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面回転ナデ。内外面青灰色。１～３㎜の長石少量含む。碌の可能性あり。	1010
14	SC17・18・19		5・Ⅱ	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。外面にぶい赤褐色、内面橙色。１～３㎜の長石・石英多く含む。	1011
15	SC17・18・19		5・Ⅱ	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。内外面にぶい赤褐色。１～２㎜の長石・石英・雲母少量含む。	1012
16	SC17・18・19		5・Ⅱ	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。外面にぶい赤褐色、内面灰褐色。１～２㎜の長石・石英少量含む。	1013
17	SC17・18・19		5・Ⅱ	石器	素材		結晶片岩。	1014
18	SP2		5・Ⅱ	土製品	鞴羽口	上半部	外面にぶい黄褐色～黄橙色、破面・内面にぶい赤褐色、被熱部赤褐色。１～３㎜の長石・石英多く含む。	1018